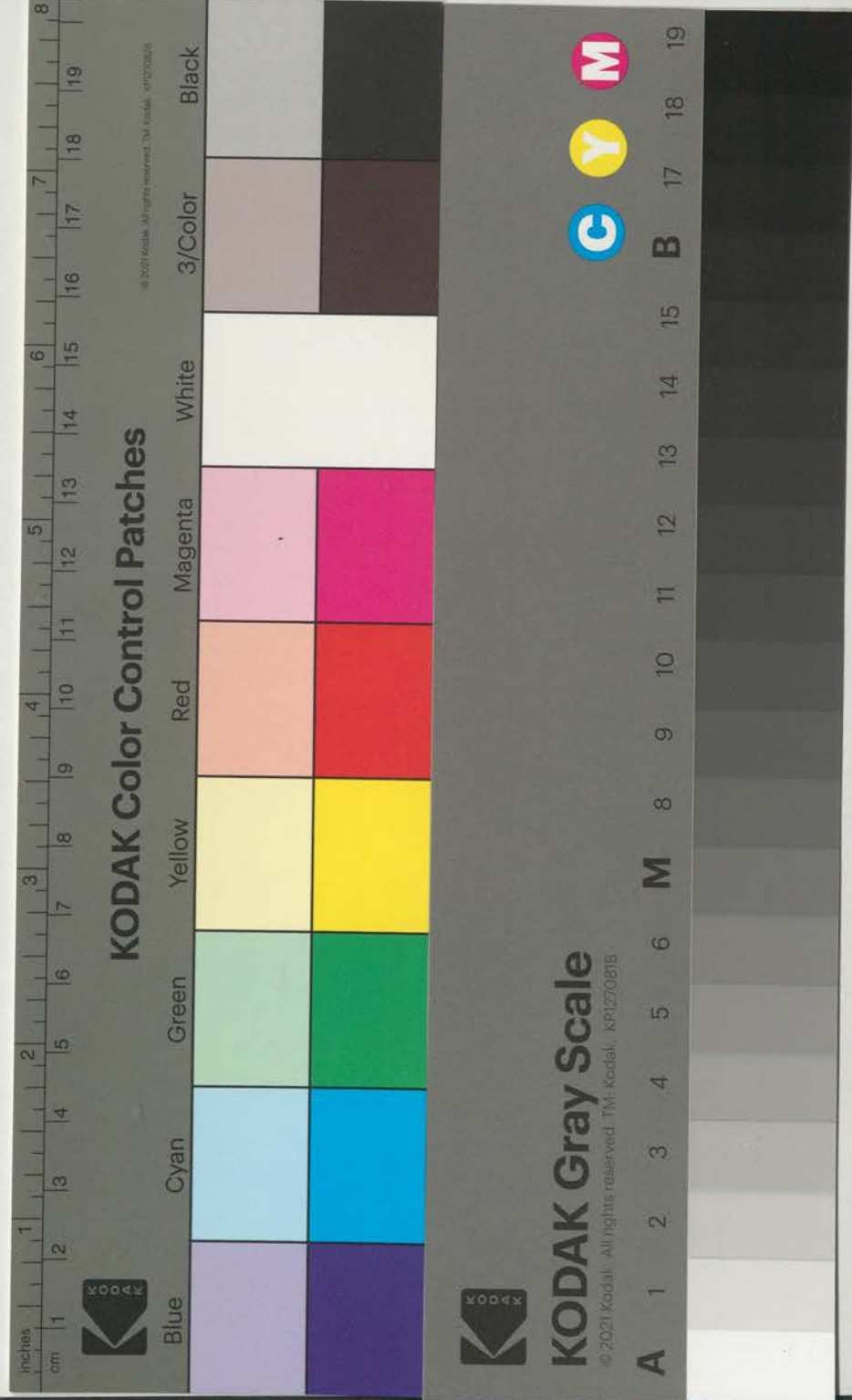


荷玉縣山林會報



第九號

(奧秩父探勝號)



林業に關する御相談

其他林業一般の事項

林業の設計及實施監督

樹苗圃の計畫及實施監督

林木材積の測定及森林の評價

林野の測量調査及施業案編成

← 本山林會へ

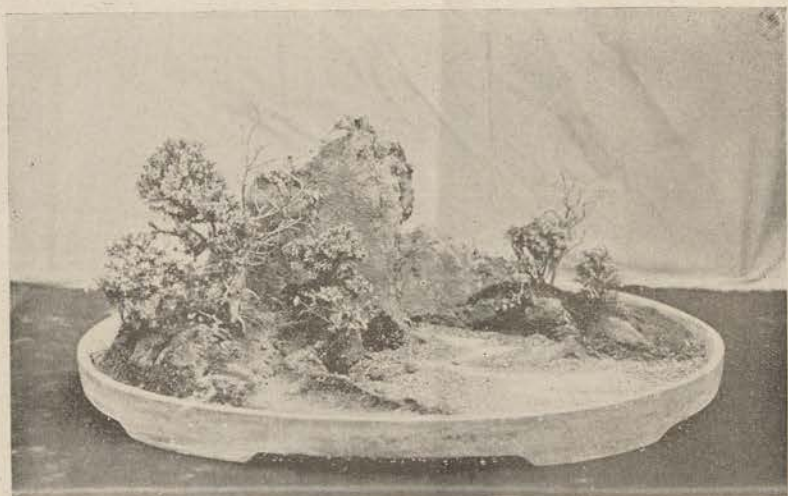
8941



三峰神社に於ける一行



中津峽ノ勝地



(照參事記)景 盆 ル レ 作 テ ニ 紙 聞 新 古



(村 森 影) 行 ノ 察 視 掘 採 ト メ セ

埼玉縣山林會報 第九號 目次

口 繪

寫真 二葉

講 演

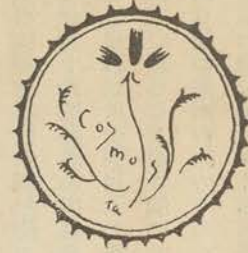
森林の文化的利用.....	林學博士 本多靜六	一
秩父風景の保存と開發.....	林學博士 田村剛	八
森林公園と奥秩父の景勝.....	本多靜六	二三
神社林に就て.....	ドクトル 本郷高德	一七
文化生活と庭園.....	林學博士 上原敬二	二一
秩父の地質.....	工學士 山田醇	二六
和銅の話.....	文學士 龍居松之助	二八
秩父山嶺と帝都.....	綠川 綠	三〇

雜 纂

奥秩父三峰視察旅行會記事.....	小武海勝藏	三三
(附)旅行會幹旋金品寄贈者芳名.....		
群馬縣森林組合視察.....	宮崎龜吉	四三
林務主任官會議.....		四六

造園講演會.....	四九
桐製品講習會の開催.....	四九
郡役所の廢止と本會.....	五〇
山林所得稅改正の實現.....	五一
全國山林會聯合會協議會.....	五三
補助金交付さる.....	五三
特別會計豫算.....	五三
柿原副會長の逝去.....	五四
毛斯倫寄贈.....	五四
職員の異動.....	五五
入會者及資格變更.....	五五
會員講習.....	五五
會告.....	五六

埼玉縣山林會報 第九號



說 林

森林の文化的利用

林學博士
ドクトル 本多 靜六氏講演

諸君私が新に世界各國を漫遊し來て特に著しく感じたる事は今日に於ける世界文化の大勢が獨立自強延て健康第一主義となつたと云ふ事と森林の利用法が著しく進化し來たつと云ふ事である。最も私の海外旅行は前後十有七回に及び特に亞細亞、亞弗利加、歐羅巴、南北亞米利加の五大洲に亘り踏破海陸六萬一千餘哩と云ふ最近の大旅行に於て彼の世界大戰後に世界文化の大勢が急激に變化した事を著しく感じたる次第である。

今先づ過去一百年間に於ける文化の變遷を大觀せば之を二つの

思潮よりなると見る事が出来る即一つは精神的時代他は物質的時代である、これは數百年來の歴史に徴しても明で今より六、七十年前迄は物質よりも理想を客觀よりも主觀を重じ即理主義が旺盛であつた然るに十九世紀の後半より一般科學が人生々生活上直接に應用せらるゝに至り其の結果現實を謳歌し空想を遠け主觀を蔑にし客觀を重ずる物質主義となり所謂現實主義を生ずるに至つた。處が二十世紀に入り成程、物質文明は人類の幸福を増進するには相違ないが他方には個人や團體や各種の階級間

に絶へず激烈なる競争が行はるゝを見て物質文明にのみ満足する事が出来ず遂に再び理想主義の時代となつた。特に世界大戦前に於ける時代思潮は今迄餘に物質に重きを置き過ぎたる事である、抑も物質なるものは人間生活の最終の目的でなくして生活の資料を得る一手段に過ぎない然るに總ての人間の活動より重大なるものゝ如く取扱れ其の弊害多き爲、各人の經濟的活動力を更に高尚なる社會奉仕に隷屬せしむる様即經濟的權利を基調とする社會を社會奉仕に基く世界に改造せなければならぬと云ふことであつた。而し未だ一世を統一する如き偉大なる人格者の現れず混沌たる間に世界大戦となつた。

思ひ起せば大正三年六月奥太利皇太子の凶變を動機として大戦争が起り遂に世界大戦の大部分即日本を加へて二十八ヶ國が参加する事になり前後六ヶ年間の戦に無慮一千萬人の人命を損し六千七百五十九億萬圓の損害をなし五個の大なる獨立國の君主は國を追はれ新に十個以上の獨立國が成立しました。其間の事情は諸君の知らるゝ如き状態で先づ三國同盟の伊太利は佛國側に加擔し始め佛國の味方であつた露國は後に却て獨逸側となり各國の離合集散極りなく遂に軍事上に於ては遠く二三流以下に數へられたる亞米利加合衆國軍の出征によりて戦争の一段落を

つけ其の結果今後の戦争は専門に教育せられたる士官、洗練せられたる軍隊よりも寧ろ富裕なる物質特に富力が最後の勝利を得可きものなる事を實驗した結果再び物質萬能主義に還元するに至りました。

私はベルダン其他幾百哩に亘る幾多大激戦の趾を尋ねて其の戦争の状況を見聞せしに近頃の戦争は實に機械と爆薬の戦争特に大小砲の數と裝甲自動車即タンクに依る機關銃、飛行機による偵察並に爆彈投下の量に依る即幾百幾千臺のタンクの中から一分間に幾百發と云ふ銃丸をポンプの筒先きの水の如くに注ぎかけられては軍隊の全部が義經、辨慶、さては宮本武藏久米平内の如き豪傑揃ひでも何んの役にも立たない義經が八雙飛ぶ間に飛行機は數哩先に飛び七つ道具の辨慶も機關銃の前には忽ち立往生だ又武藏や平内が得意の不動氣合の術も人間にはかゝるが頭の上から落ちて来る爆裂彈や機關銃には一向感じません而して飛行機一臺を造るに數萬圓を要しますが其の飛行機は僅かに百時間も飛ばば使用に耐へなくなり尠なくとも大修繕を要します。タンクでも爆裂彈でも皆、莫大の經費がかゝり結局今後の戦争は機械と火薬の量の競争で從て金の競争と云ふ事になる。如何に忠君愛國の精神に富むも（固より忠君愛國の精神は

今後と雖も益々必要であるが）それだけでは如何ともすることが出来ない金が無ければ機械火薬に困り遂に敗北するに至ると云ふ事を今回の大戦に依り各國が實驗した結果再び物質萬能主義になつたのである。

加ふるに今回の大戦に依つて彼の國際聯盟、國際公法等所謂高遠の理想杯もいさ鎌倉と云ふ際には何等價值なきことを悟り從來學問や主義主張に國境なしと稱せられし國際主義は根底より覆へされ國民主義となつたのである。尤も今尙宗教家には國際主義を主張するものもある私は最も公平なる立場より見るに國際主義の時代に非らずして國民主義即ち一國民が一致團結獨立自強に努む可き時代と考へるのである、彼の數百年間歐米の精神界を支配し來つた基督教道徳の如きも漸次其の勢力を失ひ僅かに傳統的の餘力で其の生命を維持するの狀態となつた彼の米國の異人種排斥特に排日法の實行の如きは其の一例に過ぎない若し從來の如き基督教的世界觀が健全であるならば今日決して排日法の如きは實現しない理である、即ち精神界に於ける事實は國際主義世界主義より國民主義獨立自強主義となつたのである。

已に吾國に於ける小作問題或は工場のストライキ等も主として

此の大勢に支配さるゝ一現象なれば今後は總て地主でも金持でも學者でも皆相當の——即ち筋肉勞働又は精神的に勞働をして愈々各人が獨立自強して他人の世話にならぬ様に心懸けなければならぬ而して相當の勞働に従事することは却つて其の人を幸福にして何等の勞働なしに座食する時は日曜、休日も何等有難味なく慰安も休息も旨い食事も勞働の後には於て始めて得らるゝのである。人は元來遊ぶ爲に生れたるものでなく働く爲の本能は如何に自由な社會にも現れ如何に富裕な人も僅か三四日座食する時は必ず無聊に苦しみ却て慰安として勞働を求むるは之れ生物の本能にして草木も生活機能の働きに依りて生育し得るも一旦其活動の止む時は直ちに枯死する如く人間生活に於ても働かざるものは只死あるのみである、即ち勞働は人生であり勞働なしに人生なしと云ふ點に自覺して來た而して同一事業に勞働を續ける場合には自から其仕事に上達し遂には其仕事に趣味を持つに至り勞働變じて道樂になり所謂職業を道樂化する事が出來ると自覺して來た而して職業道樂化と云ふ事は極めて重要な事であるから少しく詳しく説明すれば私共の多年の體驗に依り總ゆる職業は其職業を自己の天職と確信し迷はず疑はず専心努力するに於ては漸次其仕事に上達し何等苦痛を感じぬ様にな

り遂に其仕事に興味を持つに至る一度其仕事に興味を生ずるに至れば其仕事は最早勤勞でなく道樂である。

學問、農業、工業或は商業に於ても始めは苦痛を感じるも専心努力すれば遂に興味を喚起し道樂と變化する。

満場の諸君の内にも其業に成功せる方々には必ず自己の職業が何時か不知の間に道樂に變じて居る事を自覺する事があらうと思はれる。而して文學者は之を職業の藝術化職業の遊戯化若くは創造の生活杯と稱するが私が埼玉縣の學生の會で此話をした時に同席の澁澤子爵が私の説に賛成せられ次の如く話された。

曰く「私が若い當時に自分の村に商業を営んで居る老人が居り齡七拾を越しながら早朝から夜遅くまで働くので孫や曾孫が集りお爺さん家は金も地面も澤山出来たのであるから齡取つて働くのはよい加減にして湯治にでも行つて呉れ、と頼んだ時にお爺さんの云ふにはお前達は口癖の様に俺に働くなと云ふが俺の働くのは永年の習慣で俺の道樂になつて居るのだから俺に休めと云ふのは道樂を止めると云ふと同様で親不孝だお前達は直く金々と云ふが金杯は俺は少しも考へて居ない金はつまり俺の道樂をした粕に過ぎないのだと云ふ事を聞いて居るが青年諸君は

本多の説の如く専心努力して成るべく早く其職業を道樂化し大いに其道樂に勵み序に其道樂の粕も澤山ためる様に」と云はれた事がある。

米人杯は此點を理解して居て、金は自分で造る丈の器量ある人でなければ有益に使ふ事が出来ず反つて其人を害すると云ふ事を知つて居る、故に金持の死ぬ時は、其資産の全部又は大部分を學校其他の社會公共事業に寄附するのが常である。米國の學校や社會事業の發達せるは其爲である。殊に自分一身の事にのみ粕を使ひ過ぎる時は反つて中毒する、糖尿病腎臟病は即粕を自分の事に使ひ過ぎた中毒に外ならない、從て道樂の粕は不斷社會奉仕に使ひ自分が中毒しない様將又子孫に中毒を及ぼさざる様心掛更に新しい道樂の粕を造り之を社會奉仕に使ひつゝ生活すると云ふのが今日の文化生活の本領で所謂人生哲學の最大歸趣である。

以上各種の要素が總合して愈々各人の獨立自強の必要を自覺し其必然の結果として健康第一主義となり富よりも、名譽よりも學藝よりも、何者よりも各人の健康を第一義に置き、其健康の爲めには、あらゆる犠牲を辭せざるに至つた特に最近遺傳に關する智識の普及は人の健康は實に其人一代のみならず永く子々

孫々の幸福上に最大の關係ある事を自覺せしめ、其結果嫁に行くにも婿を取るにも健康第一で、彼の一時流行した戀愛至上主義などは頗る顔色なきに至り、彼の人生僅か五十年などと稱し暴飲暴食する青年は殆んど影を潜め各人は能く其健康に注意するに至つた。

兎に角私は此現象を見て敢て言ふ。「今日の文化生活は健康第一主義なり」と。而して其健康第一主義を實現せんには病氣に罹らぬ工夫を必要とし、其病氣に罹らぬ爲には新鮮なる空氣を呼吸し、充分日光に浴し、新しき食物を旨く喰ふ工夫を必要とする而して之等の工夫は結構個人的攝制法を、團體的に改造し、共同的の庭即公園を普及せしめ茲に充分な日光や、新鮮なる空氣を呼吸せしめ、更に運動、遊技の普及に依り各人に旨く食物を攝らしめ健康の増進を圖る事に歸着す。此の原則により歐米人は公園の普及大擴張となり他方運動遊技が非常に盛になり、女學生にても、運動競技が極めて盛んである。故に其體格は大層立派で日本の女學生と比較にはならぬ。男子は中學校や大學では學科は午前僅かに三時間位で午後は水泳や、ベースボールやフットボール其他の競技が殆んど學課と同様に課せられ、私の限には大學生活の半分以上、運動競技で暮す様に見えます。斯

くの如く、大學に於ても、學生は運動體育第一主義に努め夏期休暇、其他の休暇には、大多數山林に遊び、然らざれば夏季中のみ忙しき遊覽汽船のボーイや山中ホテルボーイ又は農業の手傳ひ、自分の専攻する工場の職工杯種々なる勞働に従事するを常とする。

日本では勞働する學生は貧乏人の子弟と考へらるゝが歐米では如何なる富豪の子弟でも、親の腰を嚙るのを恥辱とし、返つて獨立自強、即ち自分で自分の仕末をするのみならず、自分で勞働して得た金で衣食しながら勉學するのを名譽とするに依り、大學や専門學校には、夫々職業紹介所があつて朝夕又は休日に各種の勞働を爲すを常とする。

兎に角歐米の學生には、日本の如く青白き貧弱な學生なく、何れも林檎の様な顔色をして、肥つて、立派で、宛然人生の青春を象徵して居ります。實に學生や、青年男女のみならず、老若男女貴賤の別なく、何れも夫々勤勞するのを自分の名譽とし誇とする故に、旅行等にも、各自持てる丈の荷物を持ち、日本の様に自分は手振で荷物は全部赤帽に持せる事を誇る様な事はありません、只支那、印度、亞弗利加、南米などでは、赤帽が多いが歐米には殆んど見當らない。そこで私が前後十有七回の海

外旅行に於て一つの原則を發見しました。曰く「其國の文化の程度は赤帽の數に反比例す」と嘗て停車場の赤帽のみならず、料理店、成丈人を使はない様にし、自分給仕の店が、一般的になつて來た。然も不潔にしたり、亂暴なことはしない、汽車、抱も室内に桃の皮を投げたり、蜜柑の粕を吐き出したり、唾を吐いたり、不潔にするなどは決してない。特に私が感心した事は、洗面場や、小便所を綺麗に掃き中には、香水を一二滴振り蒔き後から入る人に心持よく感ぜしむる工夫迄する、私は刻下の問題たる人種的排日には何所迄も抗議するが我國の公徳に就て自から大いに反省する必要がある。

諸君今日世界文化の大勢如上の如く健康第一主義となりし結果運動が盛になり從來の市中の公園、運動場にては最早充分ならざるに至り一方最近政治方針の變化と共に愈々多く山林を民衆の運動保健用に利用するに至りました、即ち今日の政治は大多數民衆の手に移り今日文化生活は貴族金持或は學者等特殊階級を目的とせず却つて一般民衆を對象とすることになつた隨つて從來少數の貴族富豪のみが所有し享樂し來たつた所の庭園は廣く一般民衆の享樂を目的とする公園に進み此等公園も其の初めは都市の住民の一部分のみを對象としたものであるが今日は更

に田舎、都市の差別なく所謂一般國民のための大公園を要求するに至つた。

其所で大公園を作るには如何にして之を山林に求めなければならない。其の必要の結果として市街地附近の森林は何れも其の都市に附屬し又は其の都市に關聯する所の大公園に利用せられ其の森林には從來の植栽を主とする取扱法の外更に美的公園的取扱を加味し交通機關を完全にし散策靜養娛樂の設備を施すに至り所謂森林公園なるものを生ずるに至りました。近來深山幽谷の大森林まで民衆の保健用に利用せらるゝ様になり遂に森林の利用木材薪炭を主とせるものが全く異なる意味の利用を第一義に置かるゝ森林が多くなつた。即森林を民衆保健用に利用すること換言すれば森林の利用は木材薪炭を第二義とし森林公園として利用するを第一義とする箇所が多なつた。固より理論として森林利用の第一義が民衆保健用の公園なりとは云へ其の必然の結果として道路の新設改良となり運搬の便を増し事實木材薪炭産出の利益は從來より増加する場合が極めて多い。

以上は世界文化の大勢中特に思想界が健康第一義となりし結果に基く森林利用法の進化なるも更に物質經濟の進化は水力電氣を一般民衆の生活上將た産業上に普く利用せらるゝに至りし結

果今日の森林特に山岳地方の森林は水力電氣の爲めの水源涵養上の効用を第一義に置き木材薪炭の産出の如きは理論上第二義第三義に下らんとする大勢にある特に我國に於ては水田の關係上愈々森林の水源涵養上の効用に重きを置かざる可からざる次第で既に一部の識者は山岳林には水源涵養の必要上國家の費用を以つて造林せざる可からずと稱せらるゝ如き状態なれば此等水源涵養上森林の効用に就いて述ぶる必要がある。

先づ水力電氣の効用に就いて述べるに我國の水電は湯水時を標準となすも尙七百四十萬馬力を得られ平時に於ては實に一千五十萬馬力を出し得るを以つて若し今水源地一帯の森林を理想的に繁茂せしめ且つ山岳林内の小谷に無數の貯水用堰堤を築く時は其の結果他方には殆んど絶對に土砂の流出するを制止し得て洪水の害を防止し我が國が年々蒙る所の數千萬圓の損害を減じ得るのみならず常時に二千萬馬力以上の水力電氣を永久に起すことが出来る而して其の半分を普通の動力に利用するものと假定すれば優に一億二千萬人の勞働者を得たと同様の働をなすことが出来る。

今其の人口千人に對する水電の利用馬力を比較するに北米合衆國八十四、加奈陀二百八十八、八瑞典二百三、七諸國五百、瑞

西二百五十九なるに我國は僅かに二十九、六に過ぎない。今や

我國債の額内外を合して無慮五拾億參千六百萬圓に達し赤兒まで均して一人百圓足らずの國債を有するに至りたるに他方には輸出愈々減じて輸入のみ増加し昨十二年度の輸入超過は六億參千參百萬圓、本年上半期は十億壹千貳百萬圓、大正八年度以降の入超計茲に貳拾七億七千百萬圓となり所謂富の戦場に惡戰苦闘しつゝある今日何を措ても水力電氣の發達利用に努めなければならぬ其れが爲めには水源の涵養に勉めなければならぬ。特に我が國に最も困難なる農村小作問題の如きも此の水電に應用せる「農用トラクター」の普及其他農業の電化によりて充分なる勞力を得て初めて完全に解決せらる可きものを以て私は切に此の水電の發達利用を一般農村に及ぼす事を望む。彼の諸國の如きは平均六人の一家族に三馬力の割合に電力を有し宛も每家三十六人づゝの水電で勞働者を使用する割合で盛に之を農業に應用して居る。瑞典の如きも大地主は其所有地に自家用發電所を建設して農業の電化をなせるものが尠くない「ストツクホルム」の近郊には模範的電氣農園を設けて電氣運轉、犁鋤刈取機、脱穀機、攪亂器、製酪等に實際に運轉して一般農業の參考に供して居る。其他の歐洲諸國中農業電化の聲盛なの

は芬蘭土、佛蘭西等で農業電化の實施は時代の要求として着々進歩しつつある。然るに我國に於ける農業電化は尙實現の域には達しないが已に農業上灌溉排水用には電力を應用するものが少くないが更に此の電力を一般耕耘收穫、製造等總ゆる農業上に應用する、日の一日も早からんことを望む次第である。

要するに今日世界文化の大勢は固より精神的と物質的と兩々相伴ふて進むを理想となすも事實は獨立自強——勤勞即ち人生——換言すれば職業の道樂化によりて各人其の職業にいそむと同時に其の必然の結果として蓄積せらるべき道樂の粕を大に蓄積すること而も之は人生の目的でなく道樂の粕なれば決して

之れを一個人が専有することなく大いに之れを社會奉仕に利用すべきである、而して其の職業の道樂化を實現するには各人の健康が第一必要であるから健康第一主義となり其の結果野外生活特に運動遊戲や林間生活が盛になり進んでは森林公園國立公園等の勃興となり遂に森林の民衆化を來し更に又森林は水力利用上將又水源涵養上の効用が益々重要視せらるゝに至り遂に山岳林の大部分は其の所有主の利害上のみならず一般文化生活上から著しく必要を認められ漸く國家の力まで加へて森林經營を完全になさんとするのが今日世界文化の大勢である。(終り)

秩父風景の保存と開發

林學博士 田村 剛

私は御當地までは之迄に參つたことがありますが、奥の肝心な處を未だ拜見していませんので、今茲に秩父風景を云々する資格がない様に思はれます。幸にも今回の催しで皆様のお伴を

して奥迄行けるので楽しみにしてゐましたが、生憎明日役所に據ない急用が出来た爲に、今日でお暇をしなければならなくなつたのは、甚だ残念でなりません。

秩父に就ては個人的の興味から以前より多少調べてゐるましたが、今回又あれこれと材料を集めて見ましたら、私としては意外に面白い材料も見つかりましたから、そんなことでも申述べて私の責をふさぎたいと思ひます。

御承知の如く、秩父山塊は我山岳界に於て、重要な位置を占むるもので、秩父の範圍を玉川の上流から甲信の方まで擴げて考へれば、日本北アルプス大日光一帯の山岳に比すべき高さとして私の責をふさぎたいと思ひます。

假に地圖の上で觀るならば、東西十六里南北十里、約一〇〇〇平方哩に亘り、大日光の全面積より大きく、北アルプスより少し小さい位であります。

秩父には随分高山があります、南北アルプスの山々には比べられないとしても、アルプスと富士を除けば、秩父山塊が日本中で最も高いのであります。其中金峰山は盟主でありまして、最高の山となつてゐます。大洞山、甲武信岳も有数の高山の中へ數へらるゝものであり、雲取山も亦一方に聳ゆる高山であつて、之等は我國の高山中の高山に入るべきものであります。

高山と云ふ點から言つても、斯く勝れてゐるが、尙秩父山塊

は連峰と違ひ、東西に山脈が走り、南北に支脈を分岐して居り地形が頗る變化に富んでゐます。而して其間には荒川上流の外に筑摩川、笛吹川及び東南には玉川が出て何れも著名な河川となつてゐるのであります。

殊に秩父山塊の特徴は、第一に地質の上に求めらるべきで、そのために秩父風景に固有の型を持つてゐることになります。元來日本は火山が多く、又深造岩の風景も仲々多く、例へば溪谷の美を稱せられる鹽原の帯川や黒部溪谷は火山岩と深造岩たる花崗岩で出来た代表的風景であつて、秩父は水成岩を主とするもので、本邦には寧ろ稀であります。

水成岩の風景には京都の保津川や紀州の瀬八町とがあります、然しそれほど規模が大きくありません。

秩父の地質は植物の生育に最も適し従つて、秩父は實に稀な森林美を成してゐて、而も山が高いので、森林の分布は暖帯から寒帯に及び、眞に變化ある風景を現はしてゐます。

例へば紅葉の美は、日本中で關東から北は日光あたり迄が最も佳であります、秩父は關東地方に於て、特に紅葉樹種に富み就中カヘデの多いことは、秩父を描いて他に其の比を見ないのであります。

然るに秩父が今日迄あまり宣傳せられてゐないのは、交通不便の爲で、かの鹽原が今日ほどの名聲を博したのは、早くから交通の便が開け、且つは温泉があつた爲でもありませう。

然も秩父の開発が遅れてゐたことは却つて幸であつたかとも思ひます、何故ならば、以前に開けた所では當時未だ造園學上の知識が乏しかつた爲、天然の風致は自ら破壊されてしまつて原始的な幽邃な景趣は保存されてゐないのであります。然るに秩父に於ては未だそれが残されてゐましてその處女的な景觀を誇りとするのであります。これが秩父風景の生命であると思ひます。

斯くの如く秩父山塊は地積に於て、高さに於て、又地質に、植物に、景趣に誇るべき點を澤山持つてゐるのであります。

今回皆さんが御覧になるのは、秩父山塊の一部であります。其荒川上流の中津川の風景は極く最近に紹介せられたもので、秩父中稀な景勝地であります。私は今回それを見ることの出来ないのは返す返す遺憾であります。

今秩父風景の將來に就て専門上少しく卑見を申上げて見やうと思ひますが、その前に一寸今回面白い事實を發見しましたから、それを御話して置きたいと思ひます。それは今回の旅行地

内の大瀧村の落合に吾々の記念すべき人物が出てゐることであり、近所の人は已に御承知のことと思ひます。或は遠方の方でも御承知の方もあらうと思ひますが、もつと詳しく此人に就て皆さんにも調べていただきたいのであります。

人物は淺尾好八と云ひ、享保十六年（西曆千七百三十一年）即ち今から約二百年前に生れた人で、名和三年、三十六歳の時に行者となつて、號を普寛と云ひ、晩年に及んで本邦で著名な高山を開いた人であります。御嶽山の一方の道を開いたのも此人で、即ち寛政四年四月靈夢に據つて大瀧口から登山をして、新しい登山口を開いてゐます。所が當時迄は、高山に登るには必ず百日間の行をしなければ登れないと云ふ古例があつたのを破つて登山しうるやうにするなど大いに登山を普及することに努められたのであります。現に御嶽教普寛講の祖として拜せられて居ます。又寛政六年には新潟縣の八海山にも登り表口屏風道を拓いて居り又同七年には上州の武尊山開發の中興となり、登山道七里廿九町を十合に分つなど色々の制を設けて登山に貢獻したのであります。例へば登山に當つては近郊の人は一夜の精進をすれば可とし、遠方の人は道中で精進すれば良く、婦人は二合目迄は登つてもよいと云ふやうな定めを作り、又宿泊の

こと、強力のこと、金剛杖等の定りを作つたと云ひます。

斯様に登山の爲に力を盡した偉人が此秩父の落合から出てゐるのであります。此人は享和元年（千八百一年）に七十歳で没してゐますが、六十歳迄は登山をしてゐたのであります。實に此人は吾々山に關係あるものゝ特に記憶すべき先覺者の一人であります。只私共は斯様な人が秩父郡から出てゐたのに、何故其の村に對しては何等の仕事をしなかつたかと疑ひますが、それは其時機が熟さなかつたものと思ひます。即ち此行者は總て靈夢に因つて山を開發してゐた如き事情を考へ合せられるのであります。

却説之から秩父風景の將來に就て一言感想をお話しませう。

先づ秩父は大東京に最も近いと云ふことが何よりの長所で而も風景の内容からしても其偉大さの點で本邦景勝地中に重きをなしてゐるのであります。近來は風景の觀賞や登山の傾向が變つて來て、最近ではキャンピングをしたり又人跡の餘り到らない處を歩く様になつたのであります。故に施設としても他に於ける如く單に便利なものにしたりブルジョアを相手の設備をするのに腐心するのでなく、近代人の好尚に投するやうに

奥秩父を開發する必要があります。山奥の宿は目下の處では民家を借りて宿るより外ありませんが、將來は宿泊の設備を要所々々に就て御研究願ひ度いと思ひます。

尙秩父には特に登山家の興味を惹くものがあります。即ち溪谷より山頂迄の高さが高いことで、凡そ千七百米位あります。日本アルプスでも其最高は出發點から千四百五十米位しかなく秩父に及ばない位であります。秩父では溪谷は海拔五百米乃至七百米位あり、それから千七百米位も登るのでから、眺めても随分高く感ぜられ、登山家の興味を惹くのであります。登山に關聯して完全な山小屋が欲しいのであります。長野縣や富山縣では、一箇千圓位かけてコンクリート造りの小屋を縣廳で造つてゐるが、秩父でもそう出来れば結構と思ひます。

又道路もよくしたいのであります。尤も登山家には途の悪いことは大して差支ないが、一般にはよくしたいのであります。

此道を造るのは青年團でやつて貰うのも良いと思ひます。此等のことは國有林公有林がありますから、それ等では比較的容易に出来ます然し大部分は民有林であるから、この方は一寸六ヶ敷いかも知れません。

次に風景保存に就て一寸お話し致します。

大面積に亘つて保存と云ふことは仲々困難であります。下流では今日の處長澤は從來の風景を保存すると同時に設備を積極的にしなければなりません。奥の方では保存を主とし度いと思ひます。將來は水力電氣、石灰岩採取の事業等が益々盛に起ることと思ひますが、成る可く夫等の事業は風景に支障を與へない様に工夫して行き、又林業も風景を害する様な伐採は總て之を禁止し度いと思ひますが、民有林ではさやうな強制は出來ないから此點は所有者の自覺に俟つべき問題でありませう。要するに風景を保存するに就ては、經濟と兩立し得る様な案を見出し度いのであります。風致と經濟と兩立する取扱をしなければかやうな大面積の風景地の經營は困難であります。要するに各種の經濟事業に支障を與へない様に、風景を保存し度いのであります。これは技術からも相當厄介な然し興味ある問題といへませう。

秩父旅行のシーズンとしては、夏以外に春の新緑も亦良く、殊に秋の紅葉の探勝は最もよいのであります。故に今回夏のみの風景を以て、秩父風景の全部を推し斷ぜられないことを御願ひして置きます。

最後に秩父全體の風景を總括的にアルプスと比較して云ふな

らば、アルプスの美は花畑や雪溪等の美觀であります。秩父は溪谷と森林の美觀であり、而して面積や高さ其他量に於て本邦第一流の風景である計りでなく、水成岩の特殊風景であることは最も大なる誇りであると思ひます。若し秩父が緯度が高く高さが森林植物帯以上に出てゐて、花畑や雪溪があれば、本物の歐洲アルプス式の景になつたであらうと思ひます。が、然し暖帯に在つて高さも森林植物帯以上に出ないで、裸になつた部分がなくて頭から緑の衣を纏うてゐて、却つて歐洲アルプスに見ることの出來ない溪谷と森林の美を特徴とする大風景として現はれたのであります。

未だ中津川の方へ入らないが、私が今茲で只開いたり又調べたりした處に因つて、御話申上げたのですから、或は違つてゐるかも知れませんが、それは後日訂補致すとして御諒承を願ひまして、これで私の話を終ります。御静聽を煩はしましたことを感謝します。

森林公園と奥秩父の景勝

林學博士 本多 靜 六

今日の文化は都會に發達し民衆の大部分は都會生活をなすに至つた。然るに都會生活は狹隘なる地域に多數の人間が居住するため日常身心を休養すべき居住も満足に得られずさうかと云つて一步往來に出れば自動車自轉車電車等が縦横に馳驅し來つて危険極りなく恰もそれに追ひ廻されてゐる状態である。日に激烈なる生存競走の結果市民の多くは所謂パンの爲めに惡戰苦闘を續けなければならぬ状態にある。即ち工場商店倉庫等に於て時間を規則に縛られて終日天日も見ず石炭の煙や瓦斯の惡臭、塵埃の中に身體や腦髓を酷使してゐるのである。

斯く間斷なき刺戟や不衛生な勞働の爲め都市生活者の精神状態は著しく昂奮状態に陥り、神經過敏の半狂人半病人が多數になつて來たことは實に憂ふべき傾向と云はねばならぬ。從來市民の休養保健の爲めにし市の中に大小の公園が設けられたけれども今日に於ては其の空氣溷濁と經費の點から、最早完全なる自然式公園の新設は勿論既設公園の維持さへ困難となるに至つた、

一方には都會生活の反動として、近來自然を愛好し閑靜と新鮮な空氣を欲する氣運が著しく濃くなつて來た彼の土曜日から日曜日にかけて、又夏季休暇等に地方の林野、山岳等を目がけて潮の如く押寄せて行く市民の状态を見れば、彼等が如何に自然を思慕するかを窺ふことが出来る。登山熱の勃興、別荘地の發達、公園問題の提唱、田園都市や林間別荘の流行等何れも自然の必要から起つたことである。而も都市の繁劇が加はれば加はる程、人が自然を思慕し自然に憧れる情は益々強められる。

而して今日は既に市民の多くは小公園や小規模な田園都市や、避暑地等に満足することが出來ず、更に強い、より大なる自然を欲する様になつた。特に今日交通機關の發達は容易に數里若しくは數十里の遠方迄往復し得るに至り、朝夕目馴れた且つ不完全な人工的小公園などよりは、寧ろ目新しき原始的な大自然に接するの慾望を生ずるに至つた。之れ世界各國を通じての民衆欲求の趨勢であつて、已に歐米諸國に於ては頻りに森林を

民衆保健上に利用する様になつて來たのである。

北米合衆國の山林局に於ては國有林の民衆行樂上の價值を一年一千五百萬圓と算した。其算法は國有林内に遊ぶもの千二百萬人平均二日半滞在、一日十時間林内に行樂するとして一人二十五時間、之に三百萬人を乗すれば七千五百萬時間となる、而して一時間の行樂の價值は大抵私設の簡單なもので二十錢、商賣用のもので五十錢乃至二圓であるが、極く安く見積つて二十錢として算したのである。而も實際に於ける保健上の價值は金銭上にて算せられる程度のものではないと稱せらるし、果して森林が今日民衆の保健上必要なりとせば、今日の文化生活は健康第一主義なる上から、如何なる犠牲を拂つても森林を保健上に利用しなければならぬものである、随つて森林は從來その所有主又は一部人士の接觸に止まつたが、急に一般民衆の生活上に密接するに至り、所謂森林の民衆化が實現するに至つた。而してその民衆化の著しき方面は森林公園、國立公園並に林間生活等がそれである。

今少しく國立公園について觀るならば、今日文明諸國の設備は國立公園乃至は一般森林公園に集中せられてゐる。國民の保健上、國土生産力の發達上、國際間の親善上否寧ろ世界民衆に對

奧國、丁抹、瑞西、ポーランド、露國、其他列強の殖民地にさへ森林公園又は國立公園の實現を見るに至つた。而して森林公園に於て注意すべきことは北米の國立公園の如く絶対に利用を禁ずることなく、其森林公園の目的に大なる支障を生じない限りは、従前の如く林業的收益を圖ると云ふ事である。而も今日の林業經營は多くの場合に於て公園的設備が却つて林業上の利益となり、兩者共益となる事が多いものである。例へば公園として必要なる道路の普及完備は宛も林業經濟上の第一義をなし兩者互に其利益の相反することなく、共益的に經營し得られ、多くの場合に於ては森林公園になつた爲めに、一方には多少の制限と支出とを増すが、他方には材價の騰貴と運搬費の低減とによつて純益の増大した所が極めて多いのである。

我が國に於ても近年國立公園の聲漸く高まり、一昨年以來帝國議會に國立公園設置の建議案が五十幾つも提出せらるゝに至り内務省も之が調査に着手したるを以て近き將來に於てその實現を見ることと思ふ。而して名は國立公園と稱せらるゝものも、其實は歐洲の森林公園の如く取扱はるゝ事と信ずる。兎に角民衆の山岳地方に遊ぶ傾向や森林公園の設定は今日各國を通じての大勢であつて決して或る一派の近眼者流の稱ふる如き一時的

する國家奉仕の第一として宛も町村に町村公園あり、府縣に府縣立公園がある如く、國家には國立公園がなくてはならないと云ふのであつて、特に天然風景の卓絶する國に於ては之を人類の爲めに公開するのが其の國民の世界人道的義務であると云ふ點から、是非共和國立公園の設置を要することとなり、北米合衆國の如き國立公園が十九箇所あつて、其總面積二百九十五萬千二百町歩に達し、其土地は何れも國有に屬し其最小なるもの三百十二町歩最大なるは八十七萬餘町歩に達する、而して北米國立公園は經濟を主とする一切の利用を禁じ、天然の風景を保存すると同時に一般公衆の利用と道路、其他の交通機關、宿泊所各種の娛樂設備等を遺憾なく施してある、歐洲にあつては米國などゝは異つて土地は早くから開け今日では最早利用されずに残つてゐる大地積の所はない、且つ天然風景の佳い所は大抵官林又は私有地となつてゐるから、今日如何に國立公園の必要があつても、容易に米國の如き大規模で而も絶対に經濟的利用も禁ずる様な國立公園を設定することは困難である。そこで國立公園の代りに森林公園の發達となり、到る處の市街附近の森林や風景の美なる森林は森林公園として取扱はるゝに至つた。而して英國の如き已に十二箇所の大森林公園を有し獨、佛は勿論

の淺薄な觀樂慾や、輕浮な一時的流行に對する虛榮心から起つたものではない。實に是れ人間の本性に觸れた深き根底から發動した眞面目なものである。

故に予は我國に於ても此等民衆の欲求上、將た國民保健上、將又國民教化上、適當なる地域を限り數個所の國立公園設定の急務を主張すると同時に、更に市街地附近に存する景勝の山林は勿論、其山水風景の佳なる處の山林は官民有の別なく、擧げて之を民衆の爲めに開放して森林公園となし、一般民衆の遊覽、娛樂、休養の用に供し、以て現代文化の大勢に順應せんことを望むのである。そこで未だ世に知られてゐない景勝地で、帝都住民の森林公園として最も好適な奥秩父中津峽の勝景を紹介する。

奥秩父中津峽の景勝地とは、埼玉縣秩父郡大瀧村字鹽澤から上流中双里を経て中津川に至る延長約三里に亘る溪流と其沿岸地帯である。其のすつと下流には已によく知られた秩父長瀬があつて主としてその兩岸及河底の岩石の幽雅なる色彩美に構造の美によつて賞せらるゝのであるが、其景趣は遠く中津峽に及ばない。

抑々眞の風景美は恰も人間に於てその體格や年齢、健康、並に

境遇、裝飾等の要素が整然と統一綜合されて始めて完全な容姿の美の生れると同様に、此等に該當する種々の美要素が統一綜合されることが必要である。而して山水風景に於ては之を組成する岩石の種類、構造及び地質的年齢に従つて發育した形狀並に之を伴ふ水流の變化によつて風景美に大差あることは恰も人間に於て筋骨の構造と年齢がその容姿の美を支配することの大なると同様である。併しながら略ぼ同一體格で同一年齡の人でも、その容姿は更に外的に即ち境遇や着衣裝飾等によつて著しく大なる影響を受ける様に、風景に於ても亦その環境や裝飾美の重大要素たる森林の如何によつて其風景は著しく左右されるものである。

然らば秩父中津峽は如何と云ふに、長瀨にも劣らない溪流として岩石の美と變化を有し、而も沿岸には高峯峙ち、その山容と共に水態の變化極まりなく、山溪の構造美と妙齡美を遺憾なく發揮し、且つ其の裝飾をなす森林は殆ど自然の儘に残され、全山種々の潤葉樹や針葉樹の混生せる大喬林に覆はれて、綠淺きあり、深きあり幽邃なる自然の色彩美を發揮してゐる。又諸所に岩骨の露出し屹立した高峯や、壯大な斷崖絶壁があり、そこには風雅に奇曲怪折した老生樹が散生してゐる、風景に變化と

雅致を添へてゐる而して峽中の清澄な水は溪底の奇岩怪石の間に縫ひ或は之に激して白龍珠を躍らし或は湛えて碧潭の藍を浸して居る、若し夫れ流れ瀧となり大小の瀑布となるに於ては或は堂々或は涼々時に幽谷の靜寂に恰も雅樂の如き韻律を漂はしめるのである。

實に其景趣は雄大にして幽邃閑雅、一度此景に接すれば眞に崇高なる大自然に身心を委ねるの快感が湧き起るのである、そして此處は春の新緑によく、夏の清涼によく、冬の雪によく殊に秋の紅葉は鹽原、日光等に優るとも劣ることがない。

此絶勝中津峽に行くには汽車で熊谷驛より秩父電車に乗換へ、秩父町に下車し、乗合自動車で三峯山入口になる大輪に至り、そこから徒歩、縣道を約三十丁にして朽木川と中津川との合流點落合橋に達する。之より縣道に岐れて中津川に沿ひ里道を行くとく約二里にして鹽澤部落に至る。而して鹽澤から中双里まで約一里半の間は、從來四十八瀬と稱せられ、幾度か水を涉り岩壁に攀づる險路であつたが、今や中津峽に沿ひて一間幅の新道が開通するに至り、中津峽の絶景を賞するに甚だ好適となつた。而もその新道は些も風致を害ふことなく、却つてそれは一つの設備として人工的裝飾美をなしてゐる。

尙此道路は中双里より更に中津川に至る一里半を延長築設するの計畫あり、又落合橋の縣道から鹽澤に至る里道も自動車道に改修せらるゝの意向が當局者にあると聞くが、更に秩父電車では大輪より落合迄延長し、左方三峯山上に綱條鐵道架設の計畫が實行に近づきつゝあれば、此等、交通施設が竣成するに於て

神・社・林 に 就 て

本日はこの森美しき三峯の社頭に、神社と森林についての御話することになりました、まことに欣ばしく存する次第であります。

神社と森——單純に考へますと、問題は唯神社其のものの風致といふことだけに限られてゐるやうに思はれますが、しかしこれと併せて神社の財産としての森林、神社所在地の郷土風景及天然記念物の保存、或は民衆のためにする風景の利用、開發などの諸點からも考察を要すべきものでありませう。

第一、風致的要素としての森林——これは今茲にくだぐしく申すまでもありません。吾邦最古の歌集である萬葉集には

は、秩父中津峽の探勝は東京なら容易に日歸りで出来るから、中津峽を中心とする奥秩父一帯を森林公園となし、尙ほ諸種の設備をなすに至らば實に帝都市民の遊覽、娛樂、休養の地となるべきのみならず、一般民衆の避暑地、遊覽地として我國有數の名勝公園となるを疑はない。(文化畫報より轉載)

ドクトル 本郷 高德

「神社」を「モリ」と訓ませてあります、又古文學には「某々の森」といふのが澤山に出て居りますが、今日これ等を地理的に調べて見ると、何れも神社の所在地で、其の森には必ず神祇の祀られてあつたのであります。そんな風で往古の神社には森の存在が先づ必要な條件で、今日普通に見るが如き社殿の建築は後になつて發達したものであります。無論現代の神社は社殿建築物が主體で、本殿は神靈のゐます場處といふのが原則ではあります、それでも今尙著名の神社で山林を以て御神體としたものもあります。例へば本縣兒玉郡の金嶺神社(オウサキ)の如きは其の一で、拜殿の後に本殿なく、後方一帯の森林を御神體としてある

長野縣諏訪の諏訪神社(上社)の如きも同様に御神座地は森であり、奈良縣の大神神社も三輪山の山林を以て御神體として御祀りしてあるのであります。古い昔は神の森即ち神社と謂つてもいのであります。今日の神社は無論社殿が本位でありますしかし社殿の建築が如何に立派だとして、森なくしては決して完全なる神社の結構といふことは出来ません、又これと反對に社殿は極めてさゝやかでも、又輪奐の美はなくとも、これを包む鬱葱たる森があれば、其處には確に神社らしさを感じるので、所謂「鎮守の森」が如何に懐かしく又神々しく吾人の目に映ずることでありませう。ましてや山深く晝尙暗き大森林中の神社が常に神秘的印象を深からしむるものあるは當然のことであります。

吾邦の神社は大小を併せて其數約十一萬ほどで、其の内の官國幣社だけでも二百近くを算するのでありますが、都會地所在のものを除き、多少なりとも境内には森或は森らしきものがあり、或るものは一社で數千町歩の大森林を持つてゐるものもあります。此等の森は近年までは人の獵にこれを傷めるものもなく、烟害なども夢に知らず、至極安全な境遇にあつたものですが、時代の推移につれて其の保護も以前の如くには行かず、殊に都

市の膨脹と諸工業の發達とは何れも樹林に危害を及ぼすべき烟害を伴ふので、今では僻陬の地を除くの外、神社の森に荒廢のあとなきものなきは、洵に嘆ずるも尙餘あることで、今に於てこれが恢復の方法を講じ、又これに適切なる撫育を加ふことは神社境内の風致から見ても一日もこれを緩うすべからざることです。神社に於て神舎保護の必要なるは言ふまでもないことであります。しかし林苑の造成と復舊とは、人爲と財力とを以ては如何ともし難き長年月を要するので、此の點より觀るも、林苑の維持については常時一層周到の注意を要する譯であります。

第二、神社の財産としての森林

次いて風致の關係から全く離れ、神社の財産として森林は如何なるものかといふことを考へて見たい。

御承知の通り神社には昔、神領、社領なるものがあつた通りに今日の神社は財産として所謂社有林を持つて居るものもあります。同じ神社の森でありながら、これは境内林が風致を旨として、其の經濟的利用を許されないのとは全く異つた性質のもので、收益のために自由の施業をなし得るものであります。しかし數多き神社のうちでも財産として此の如き森林を所有するも

のは甚尠いのであります。思ふに神社の有すべき財産としては有價證券、現金なども便利ではありませうが、箇人の財産とはちがひ、唯これが便利であり、有利であるといふことのみを條件とすべきではなく、先づそれが確實であり、又獵に融通し難い性質のものたるを要することと思ひます。此の點からすれば森林が神社の財産に適することは明かで、それに林産物需給の關係から言ふても、森林の價格は年々騰貴の傾向を持つて居り地方の開發に伴ふ森林の價格騰貴も亦當然のことでありますから、一面相當の收益を擧げながら、知らず／＼のうちに財産の價值は高まる譯であります。それに神社の修造、營繕等の場合にも、隨意に其の所要材料を自家の森林中から選擇することの便利あるは勿論のこと、此種の森林が神社及郷土の風致に寄與することの尠からぬことも亦決して度外視することの出来ぬことであります。こう考へて見ますと、神社が基本財産としての森林を持つといふことは至極都合のよいことで、理想的のものと言つても、敢て過言ではありますまい。

しかし残念なことには唯今申すやうな意義を持つ森林を所有してゐる神社は未だ甚尠く、又或るものは相當に廣い森林を持ちながら、これが境内林といふ名目の下にあるために、少しも

これを經濟的に利用して居ないといふ状況にあるのであります私は前に述べましたやうな理由で、風致を主とする境内林以外に、神社が基本財産としての森林を持つことを廣く御勧めしたいと思ふのであります。勿論これは場處にもよりますことで、何處でもといふことではありませんが、森林地方で割合手軽に土地を手に入るゝことの出来る處なれば、これから造林をして將來を待つといふ方法も亦決して悪くはないと思ひます。しかし茲に注意すべきは無計畫なる森林の取扱で、これは無理な收益を得んとして、遂にはこれを荒廢せしむることに終るのが常であります。是非とも當初から適當なる施業計畫を樹て、將來に亘つて適切なる取扱を規定することにせねばなりません。

吾共は此度の視察旅行によつて、幸にも此處に神社の森の美しきものを見ることが出来ました。三峯神社は二萬餘坪の境内に續いて、實測千町歩近くもある社有の大森林があり、それには既に専門家の手によつて將來の施業計畫案も出来、今後はこれによつて植伐の事業も着々進めらるゝことになつてゐるさうで、かくあつてこそ、社有林の神社の基本財産として甚意義あるものとなるのであります。此際唯注意を要すべきは、たとへ社有林たりとも神社のためには相當の風致的考慮を要すること

施業計畫については、先づ此の趣旨により豫め風致區域と經濟的施業區域の決定に誤なからしむることであります。

第三。郷土風景の保護——天然記念物の保存

何處にも同じことで洵に餘儀ないことではありませんが、國土の開発に伴つて、交通機關の普及と産業の發展とは、到る處で日に月に郷土の風景を破壊し、或はこれを傷けつゝあります。實に惜むべく又嘆かばしいことではありませんが、如何にこれか對策を講ずればとて、絶対にこれなからしむることは恐らく不可能で、場合によつては残念ながら或る程度まではこれを忍ばねばならぬこともあります。しかし世が進めば進むほど、吾人の生活がせはしくなればなるほど、美しき自然といふものゝ價値は益々高まるべきものといふことを思ひますと、せめて此の迫害は神社の境域にまで及ばさないやうにしたいものです。勿論神社の森は神社其のものゝためではありませんが、美しかりし郷土風景の次第に減び行きつゝある悲惨なる環境の間に立つて、若し神社の森が昔ながらのまゝに残されたとしたら、如何にそれが貴く、美しく、又郷土の人々の目に懐かしく見へることでありませう。此の意味に於ても神社の森の保護については充分の方法を盡すべきで、殊に都會附近や、開けた農村地方に

於て一層此の感を深くするのであります。

又皆様御承知の天然記念物——これは其の保護について昨今は法律を以てこれを指定することまでに進んでまいりましたがまだ〳〵隠れたる天然記念物の數は尠くないことでありませうこれも風景同様に開けた場處ほど其の保存は困難であります。神社の森は猥に公衆の出入を許されず、竹木魚鳥をも採ることの禁ぜられてあつた處だけに、天然記念物にとつて、今までは安全地帯であつたのであります。といふもの神社の管理者、参拜者の心かけ如何によつては、此處とても決して安全だとは申されません。郷土の誇りであり、又學術研究の貴重なる資料たる天然記念物については、これ亦郷土風景と併せて其の保護に力めなければならぬことゝ存じます。

第四。風景利用

隠れたる風景、名勝地を開發して遊覽地帯となし、これを民衆の享樂、保健のためにする計畫は昨今各地に行はるゝやうになりました。これは時世の推移に伴ふ當然なことでありませう。此の種の計畫のうちには、名勝地に併せて神社の森林などをも包括したもの、或は又其の郷土に於ける古き由緒ある神社を中心としての所謂「神社中心の名勝地帯」などを考へたものもあ

ります。これは風景利用の計畫として面白いことではありません

が、往々にして神社の意義を没却して、神社と遊園とを混同したるが如き誤つた考の下に行はれたるものもあるので、これは全く神社にとつては忍び難いことであります。けれども此種の施設は神社の尊嚴と風致とを傷けず、又森林の施業を妨げざる限り差支ないばかりでなく、反つてこれによつて神社と民衆との接近を見ることがあるのであります。唯此際恐るべきは誤りたる計畫によつて森嚴たるべき神社の俗化され、美しかるべ

き森の傷けらるゝことであります。

神社の森——今までは唯其の風致のみを主として、保存と保護とのみが考へられてありました。或は當分はこれでよいかも知れませんが。しかし神社の財産とか郷土風景の保存と利用とかについては、追々に解決を要すべき問題が出て來ることゝ思はれます。此の機會を幸とし、いささか所見の一端を述べて御清聴を煩はしました(終)

文化生活と庭園

林學博士 上原 敬 二

本稿は五月二十二日浦和調神社々務所に開かれたる埼玉縣山林會主催庭園講演會に於て上原博士の講演せられたる筆記である、文責記者にあり

私は埼玉縣とは特に密接な關係がありまして、去る大正十一年には北足立郡農會主催の庭園講習會に出席しました、今回も特に我々に因縁淺からぬ盆栽陳列會の催を開きまして心竊かに喜んで居りましたが、此機會に特に庭園に關する講話の御依頼があつたのであります。庭園は吾々の生活上密接なる關係があ

りまして之が實行に當り常識としても必要な事項に就て御話致したいと思ひまして、今日迄一部の人の持たれる庭園の考へは私のそれと違ひはしなかつたかと思ひます。之は時勢の變化に連れて變つて來たのは明らかで吾々が住むに(住むと云ふても人間らしい生活をする即ち文化生活をなす上に)適應した

庭園が必要になつたと思ふのであります。吾々の生活中眞に住むことは精神上の安住でなければならぬ。終日の疲勞を慰めるは只住宅のみで足りるものではなく庭園を有して緑の世界が無ければ眞の生活は出来ないであります。

郊外に住む人々は左程感じないかも知れないが大都市に住む人々か植物に憧れて居る事は非常なもので彼の大震災の後に於て東京市中の人々は焼土の中でレストランにある僅かの青葉のためにどれ程心を慰められたかを思つても分るのである。其他監獄の窓から見ゆる僅かの樹葉が自然から隔離せられた囚人に取つては唯一の慰で有つたであらう。死刑囚が久方に獄窓から自然界を見た刹那自己の現在を忘れたと云ふ話がある通りで自然に恵まれない國民には無理からぬ事であらうと思ひます。日本人はあまりに自然美に恵まれ過ぎて居る爲めか自然を虐待する缺點があるがもつと自然を愛する様になつて貰ひ度いと思ひます現在東京市中には澤山の庭がある。大都市の最中に斯様に澤山の庭のある處は外にない故外人は不思議に思ふが之は洵に幸福な事と思ふ。而し將來東京市も彼のニューヨーク市の如く文化生活の極に達したならば或は市中に樹木を見る事が出来ない様になるかも知れない。

る。

之に反して歐米人はよく天然を理解し自然を愛する點に於て實に進歩して居ます日本人は自然との接觸が多い故之を理解しては居ないが理想化すること一般に上手であつて箱庭位は何人でも造る事が出来るが、之は國民の本能であつて一般の歐米人には出来ないのである。近年迄の我國一般の庭園の作り方は他の事情には頓着なく只型にあてはめ様と計り苦心する傾向がある例へば使用する植木又は庭石の種類や大きさなども住宅の位置とか大小とか方向並に隣接地の配景庭の廣さ等を考へず在り來りの型に作り上げ様とするからきゆくつ過ぎたりさびし過ぎたり日陰勝になつたりして甚不調和の上に實生活と無關係ばかりか之に反するものが出來上る場合が澤山あります。

之がため日本庭園は米國人より大なる誤解を受けた事がある。それは米國に居る日本人が(別に造園的智識ない者が)外人に依頼されて自己流の庭を造つた爲め多大の經費を要した許りで趣味調和が取れて居なかつたので日本庭園は實用向でなくて經費が多くかゝると誤解され藝が却て身を亡ぼしたとも申しませうか之は全く半可通な型にはめ様とあせつた爲め其が爲めに日本庭園の名譽を傷けた事は非常のもので之が恢復は頗る骨の折

都市中に公園の必要なのは文化生活の副産物であつて文化の進む程自然を遠ざかり目下盛に行れて居るマラソン競争の如きは原始味を體得する自然への憧憬と歸趣とに外ならぬもので皮肉にも文化生活への叛逆であるとも云へませう。文化生活の極は自然に還るとか申しますがニューヨーク市中に住む子供等は天然の水や火等を知らない者が多い。アパートメントハウスに住む人には無理からぬ事である此反動として郊外や森林公園等に行き谷川の流れを飲み或はたき火をして之で焼いたものをたべて喜ぶ等自然界に慰安を求めるべく努めて居ますが之等の生活が幸か不幸かは問題でありまして大都市に於ては如何にして天然の美に接して行くかにより之が設備の程度が其文化のパロメーターであると云はれ庭園や公園の問題が自然に對して如何なる地位を占めて居るかやわかるのであります。

庭園や公園を見て日本人位自然を知り盡して居るのか又理解して居ないのかわからぬ國民は少ないと思ふ。例へば盆景又は庭園を造るにしても自然を縮少し理想化する點はよく理解して居る様に見えるが一度郊外又は山水に恵まれた自然界に足を運ぶだ際に之が風致を害する行爲を平氣でして意に留めぬ者の多い處を見ると解して居ないとも思へる之等は誠に矛盾した事であ

れる事と思ひます。

時勢につれ庭園の見方も異なるもので彼の奈良朝時代は唐の文化を轉吞みにして支那傳來の庭園を造つたものであつたが、平安朝に入り幾分日本化して參りました其式の庭は今も有ります。下つて鎌倉時代は暗黒時代で室町時代に入り始めて日本人の生活や趣味に適ふ庭が出來たのである。此式のものとは世界の庭園界に出して決して遜色のないもので近代藝術の精神と合致して居る即作者の精神が打ち込まれて居るからである。次に桃山時代より徳川時代に入り漸次墮落し徳川の中期に入り益々甚しく後期に入つて漸く緊張して江戸文化を興したもので今日の庭師の作る型は即其遺風であります。

處が今日も其時代の式を取つて其理由の如何を考へずによつて居るが之はよく活用しないものであつて現在の生活様式には合致しない。其故生活状態により之が造庭方法を定むるが肝要で實生活に適合する様に造らねばならぬ。

然るに近年は洋式の庭を直輸入して實用に供そうとして居る者も往々見受けるが是れ又一般我國の生活には合致しないのである、特に近來は子供の爲めに庭を造る様になつた誠に結構の思付であるが之も餘程考へ物で多くは大人の考へで造る者が大部

分であるから之等に對して子供が決して満足するものでないから子供の心理をよくよく研究して造らねばならぬ又西洋では芝を澤山植込み遊場等には盛に之を用ひて居る之はよい事だから芝を植るに限るとして無暗に芝を使つて見た處があたりの實狀も調べずに只芝ばかりで樹木がなかつたら夏等は却つて熱い。

日本の庭に樹木のあるのは風致を添へる許でなく風や砂や強過ぎる日光を防ぐのである此長所を知らず體裁ばかりを考へて實用の根本を忘れてはならぬ。故に此後の庭園學は從來の長所ばかりを利用して實生活に適合する様に考究せねばならぬ而らば將來庭を造るに就て最も意を用ひねばならぬ事は何であるかと云ふと第一には材料の選定であつて如何に立派な設計をしても之が實行に當り材料主として植木の適當なものを手に入れる事が出来ねば設計者の理想は全く無視される譯で其等は庭園が悪いのでなく設計者の注意が足らぬのであります。

今少し庭園も植木屋も進歩せねば理想の庭は作られませぬ。近來は樹木の素質が低下し一方嗜好家の知識が向上した程に植木屋の頭は進まず新しい材料を樹木に要求する事の出来ぬ過渡期であつて將來植木を取扱ふ人々の研究すべき問題である。此後の庭木賣買方法としては郊外の或區域を限り庭園の様式を

なすものを造り土手等に植込をなし此の一劃を何程として賣買する方法が最も時代に適應したる新しい方法と思ふ。此方法は未だ他に例はないが我國に於て十分可能性がある。

第二は何とかして新材料を使ふ事で即今迄は山木として顧みないものの中に使へるものがないとも限らぬ。木ばかりでなく草も同様でありまして之が材料より見た造園上の新方法であります凡て庭園はあなたがち高價な材料を用ひねば立派なものは出来ぬ譯でなく之が可否は美の觀念の如何にある事で即ち高價な衣服を着て居るからと云つて美人と即斷出来ぬと同様で材料の良否によつて庭全體を判別する事は大きな間違であつて繪畫や彫刻同様に技術の如何に支配されるものである。

要するに造園は自己の地位家屋趣味等に依りて異なり之に合致するのが意義ある庭と云ひ得るので趣味嗜好に適合する事が要件でありますが尙外に實用並に美觀等に於て各人の個性を發揮させるが又必要で將來各自に庭を造る様になることが望ましいのであります、但其處に幾分の規則があります故其は専門の技術者が皆様の御相談相手になります。

浦和地方は東京の郊外として將來田園都市となるべき素質を持ち材料も豊富な譯だから共同庭園を經營するに最も適當な地位

を占めて居ると考へます。此種の庭園は現在はこちらより大阪

附近に盛に發達しつつあります、即ちラウベンコロニーと申して彼の獨乙のベルリン市外には市民共同の庭園や果樹園其他花壇等を經營して日曜其他の暇を利用して家族同伴で終日自然にしたしむのであります。此外私が常々考へて居る事は浦和地方は植木の本場の事故せめて樹木の見本園位は出来て欲しいと思ふ我國に植物園は澤山あるが樹木園はない他の文化國では樹木園と植物園が兩立して居ます。

彼の米國の如きは最近樹木愛護が盛に宣傳せられ所々に樹木デ-Iを催し此に關する講演其他の催しには直接苗木や山林に關係のない者迄多數に出掛て行き所謂聽衆堂にあふる狀態で大統領の如きも自ら此植樹デーには植栽をなすとの事で如何に樹木愛護の思想が普及して居るか々窺はれます。

尙安行地方の庭木栽培法に就て一言私の理想を申し上げ度いと存じます其は庭木の里子栽培法とでも名付けましょうか自己の手許で之を栽培せず苗木を毎年他人に次から次へと毎年又は隔年に委託栽培を行ふ事で最後に最も交通の便利なる地に移し其を市場へ出す方法で次の様に多くの利益があります。

一、樹木栽培上土地が異なる故土地に對する適應力が大なるこ

と。

二、栽培する樹種が變る故病蟲の被害が甚妙き事

三、小面積の土地を最も有効に利用し得る事

四、移植が自然に出来る事

五、短期の事故地主に迷惑少き事

六、栽培者は樹木に對する多くの知識を得る事

七、各地方に供給する種々の標準を知り得る事

最後に園藝と造園の別に付申上げますと園藝は土地を利用して利を目的となすもの即利得主義のものであります但し造園は之と異り土地を美化するのが根本主旨で有つて國立公園森林公園乃至は校庭を造營する類で有りまして決して利益を目的とするものでないのです。

私は感ずる處あつて將來時代に適應したる造園のため之等の専門家を養成する主旨の下に學校を經營して居ます何卒皆様の御後援を願ひます時間もありませんから之れで今日は御別れ致します

拍手

秩父の地質

工學士 山田 醇

○ 長瀬の名聲が天下を風靡する様になつて來たが、未だ歐米に迄は知れ渡り居りません、然し秩父と云ふ名は世界の地質學者の耳の底に響いて居ります。

○ 何故に秩父が地質によつて世界的に知られて居るか云ふに秩父盆地を形成して居るあの圓形の山脈と、秩父溪谷を形作れるあの岩層とは、我々の住んで居る地球が、古い／＼何億年前から今日に到る迄の、各時代の地質を僅な區域内に露出して居つて、地質、礦物化石等の研究に極めて便利であるからであります。

○ 大長瀬遊園地内に含まるゝ、國神村金崎にある十二天山の頂上名木二本杉の礎に立つて、秩父盆地を眺めて下さい、眼下を

字形に流るゝ清流は、隅田川の上流荒川で、其の西方の支流は赤平川です、赤平川の上流は三山川で、秩父の西端上州との國境なる志賀坂峠から流れて、十二天山の下から半里の處で本流に合して居ります。

○ 秩父盆地の北側の山脈、即ち十二天山を中心に東西の山系は地質學上三波川系と稱する結晶片岩の岩層で、此の岩層は世界最古のもので此の時代の地質的年代を、始原界又は太古界と申します、長瀬の岩層も此の三波川系のもので、赤青白黒等の各種の結晶片岩層から成立して居ります。

○ 又秩父盆地の東南西の三方を形成して居る岩層は、太古界の次の年代に出來た、古生代に屬するもので、地質學上秩父古成層と稱し特に有名なもので、武甲山や兩神山の石灰岩やラジオリ

リヤ岩、角閃石等各種の岩石がある、秩父の金山や鐵礦は此の時代の產物です。

○ 赤平川の上流三山川の溪谷は、其の次の中生紀と云ふ時代に出來たもので、特に古生代の溪谷内に生成したもので、山中地溝帯として有名であります、其時代には東京灣が源り秩父の奥迄灣入して居つたので、今日前述の志賀坂峠の頂上から、幾多の重要な化石を發見致します。

○ 赤平川の沿岸及赤平川が本流への合流點から、上流赤平橋の附近の、兩岸の平地及、小山脈特に二三十メートルから二百メートル位迄の小山脈は、中生紀の次の時代なる、第三紀層に屬する、砂岩や頁岩の岩層で此の内から極めて多くの化石を發見致します。

○ 日本産の石炭の大部分は、此の第三紀層から出るので無煙炭がないのです。人類は此の時代に始めて出來たと云はれて居ります、セメントは古生代の石灰と此の時代の頁岩とを一緒に焼いて作るのであります。此の時代は地球が段々現狀に近づいて

來たので地質的變化が幾分小規模であつたので、此の時代のものには大山脈がありません、従つて岩石も軽いものが多いのです。

○ 其の次ぎの時代は即ち第四紀で、我々の庭の表面や田畑の表面を形成して居る地層であります。

○ 斯様に各時代の岩層や、礦物や化石等が我が秩父には到る處露出して居つて地質學的の變化も又々處々方々に千差萬別の形態をして居つて夫れが長瀬から金崎を経て赤平川の合流點に到る、僅かに一里餘の間で大體見學の出來得る事は、世界廣しと雖も他に少ないのであります。

○ 今から約三十年前突然神保博士の訪問を受けてから遂に先頃迄郷里の小學校長たりし宮前治三郎氏と共に約二十年の間神保博士の指導を受けて、秩父の岩石及化石の採集を試み、幾多の標本を集めましたので、此の頃宮前氏と共に秩父の代表的化石を小陳列館に陳列して、一般の從覽に供して居ります。

秩父鐵道會社でも、元の長瀬驛長の松崎氏が地質に非常な趣味を持つて居つたので、長瀬遊園地内に相當完備した、礦物の陳列館を設けて學徒の便を計つて居ります、兎角日本の多くの營利會社が、斯様な非營利事業に無感心でありがちなるに不拘、獨り我が秩父鐵道で斯様な世界的寶庫の紹介の爲に、多大の費用を投じた事は、我々の深く感謝する次第であります

○
秩父は實に地質學上世界の寶庫で、地球上に生存する吾人は直接間接地質學の恩澤を蒙る事極めて多いにも不拘、一般には割合に地質學に對する趣味が少ない様であるが、如何にして地

和銅の話

抑々太古の代にあつては總て物々交換であつて貨幣なるものはなかつた、この貨幣が史に見えたのは日本書紀、顯宗天皇二年冬十月であるが、これは事實ではなく、書紀の編者が後漢書に據つて書いた修飾文學である然るにその後文武天皇の二年に初

球が成立し、如何に變化しつゝあるか位な事はお互に知らずして地上に生存する事は如何にもぼんやりした話ではあるまいか

○
秩父の難道路と稱さるゝ尾坂新道の如きも、少しく地質學の素養ある土木技師によりて取扱はれたならばあんなへまな工事はなさなだらうと常に同好者と語り合つて居ります。

私は此の機會に於て申します我が埼玉縣當局者は、土木建築山林農業等の方面に、も少し地質學の應用を心掛ける事と、世界の寶庫秩父に對しても少し具體的に心配するのが當然だと思つて居ります。

文學士龍居松之助

初めて對馬國から銀を發見したので、之を珍重し同十二年の頃には之を貨幣として用ゐてゐるらしい。又銅は我國では極めて古い時代からあつたことは土中發掘品等によつて判るが之を貨幣としたのは無論支那大陸乃至朝鮮半島との交渉が始つた後であ

らう、而して書紀には文武天皇の三年に初めて鑄錢司を置き直大肆中臣朝臣意美麻呂をその長官としたとしてゐるが、鑄錢司のことは同書持統天皇の八年、即ち之より五年前に存在したことを明記してゐる、何れにしても、この前後には鑄錢司なる役所が出来てゐたが、さて如何なる貨幣を造つたかといふことは不明である。

所がその後慶雲四年六月十五日に文武天皇崩御せられ、次いで元明天皇が即位されてゐるが、その翌五年正月十一日、武藏國秩父郡から和銅を献上したので大いに之を喜ばれ、直に改元があつて和銅元年となつてゐる。その當時の詔書を見るとその時の歡喜の情態がよく分るのである。而してその二月初めて鑄錢司といふものを設置し從五位上多治比真人三宅麻呂を以て之に任じてゐる。この時は銀貨と銅貨が出来たが、これが和銅開珍である、珍は寶の略字であるからホウと訓む方がよろしくこの外にも稱徳天皇の天平神護元年に神功開寶といふ貨幣もあるから、カイホウと讀む方が至當であらう、昔から兎角開珍と傳へられてゐるか、この場合に私はホウ説を申上げておく。

さて和銅開珍は銀貨は徑八分、重量二匁一分強、銅貨も徑は八分だが、重量は一匁、銀錢一文は銅錢四文に當るので、その

初めて世に行はれたのは、其の年で、銀錢は五月、銅錢は八月であり、錢の値は、穀六升に付銅錢一文、一兩六石といふことになつてゐて、唐制の模倣である、而して和銅二年に銀銅貨幣を私に鑄造する者に關して罪を定めてゐるから當時既に貨幣を偽造するものがあつたらしい。

併しながらその頃の我國人は貨幣を用ゐることを知らず、百姓などは反て之を喜ばなかつたらしく和銅四年十月の詔を見ると餘程通用困難であつたらしく、終に蓄錢者叙位といふことを令したが爲めに相競ふて蓄錢するに至つたものゝそれは位が欲しいからで、錢を貯蓄するのはその方便といふ有様であつた、而して一人の蓄錢を數人が融通しあつて何人も叙位の恩典に浴するといふやうなこともあつたので之に關する罪を定められてゐるそれから同五年十月には諸國の役夫及び運脚者が郷に還る時旅行中の糧食乏しく途上餓死するものがあつたので、旅中は貨幣を用ゐ、之によつて諸國に於ける郡稻を割き與へよと令し、貨幣流通の途につき苦心し更にその十二月には諸國の調庸は錢を以て換へしめて居り、又六年三月の詔には郡司少領以上に任ぜらるゝものは性質結構、時務に堪ふるのみならず、蓄錢六貫以上を條件と定め、又田の地子は錢を用ゐ他の品物で取引する時

は田もその品物も官に沒收するといつてゐる。

此の如く貨幣の流通については爲政者も餘程苦心したらしいがなほ一般人民は物々交換を喜び、單に位が欲しさに貯蓄するといふのみであつた、之を要するに當時代に於いては大陸文明の輸入に汲々として、我國の文化も一時に花を開いたかの觀があるが、その實情は上述の如く一般人民は極めて幼稚なる狀態にあり、たゞ貴族社會の一部の者が外國文明の中毒に罹つてゐ

秩父山嶺と帝都

緑川 祿

一、秩父名稱の起因

秩父は古の知々國で現在では秩父郡となつて居る。而して其昔初めて知々夫彥命が國造に任ぜられて居る。其名稱の起因に就ては詳かに知る事は出来ないが、吉田博士の地名辭典によれば「銀杏の樹を乳の木と言へば、當地方には其の木多かりしに因みて名づけたものであらうと言はるるが、乳の木となさんよりは石鍾乳とするがよからう」と言はれ居る、而して秩父には現

たか乃至は罹りかけてゐた時といつて差支へない。

このやうに和銅が秩父から出た頃は貨幣といふものが後世の如くうまう、行はれた譯ではないのである。而して終に一言しておきたいと思ふのは當時我國に於ける銅の產出は獨り秩父のみではなく河内、近江、播磨、周防、長門、太宰社等に於いて銅錢を鑄造し、その材料はその地方々々から出てゐたので銅の產出はなか／＼盛んであつたといふことである。

に鍾乳洞も多いのでかゝる所より其名稱が出来るのではあるまいか。

二、秩父の地勢人口

秩父は埼玉縣の西半一帯の山地で、面積六十三方里、縣の全面積の約四分の一を占むる大郡である、而し一般に山地多き爲め人口稀薄で十四年現在十萬九千六百餘人（全縣百三十九萬人餘）で、一方里平均千五百八十人に過ぎない（縣平均五千三百

五十一人）

斯くの如く山岳多く平地少なき爲め縣下の林野面積の大半は本郡の占有する所で、秩父林業の盛衰は實に縣下の林業を左右するのである。今參考の爲め田畑山林等の面積を掲記すれば左の通。

宅地	七四七町
田	七四八町
畑	一〇、四九一町
山林	六一、八五八町

三、秩父の山水と帝都

秩父地方の山林河川は最も帝都に近く、秀麗なる風景をなせる外、治水上最も重要な交渉を有するもので、殊に帝都とは最も深き關係あるが故に、縣に於ては各種の治水策を講じて只に縣民の福祉に致すのみならず、帝都二百萬人の生命財産の安全をはからんと期して居るのである。

又一面國に於ても荒川の治水策を立て上流地方森林の施設と相俟つて將來益々安固ならしむる様努力して居る。

四、森林公園としての秩父

帝都に近き山林地として箱根方面は能く知られて年々の遊覽客

も可なりに多い、けれ共眞に森林公園の氣分に富み、尙將來あ

り、且つ趣味の多い森林公園地として帝都に近きは、奥秩父方面より東京氷川方面である、之等を連絡し熊谷より長瀬を経て三峰山に詣て奥秩父中津峽に遊ぶか、或は轉じて東京府下氷川に至り青梅を経て歸京する如き循環的回遊の旅は如何に興味多い事であらう。

勿論未だ開かれざる所もあり不便の點も多いが、三峰登山電車も出来ればよく一日の參詣清遊に適し又一面には原生林の美も味ふ事が出来る。

兎に角帝都に近く而かも研究事項や參考となるべきもの多き地方なれば、其學究者は勿論一般の者もよく一日二日の清遊に適する、又帝都の人々は朝な夕な最も關係深き荒川の水源地を如實に探究する要もあると共に紅塵萬丈の都會生活から逃れて、其つかれたる腦を休め、更に活動の原資を養ふは最も必要である。

五、御皇室と秩父

津々浦々至る所として皇國の光の輝かざる所なきを以て、御皇室との關係のない所はないが、秩父地方の如きは殊に最も深き交渉ある所である。

景行天皇の四十一年、日本武命は、東夷御征討の折、甲斐酒折の宮を出て雁坂峠を越え武藏野に來り給ひし時三峰神社を造營せられ、又武甲山は尊が武具を藏められしより出たる名稱なりと言ひ、同山頂上なる御嶽神社に尊を奉祀せる如き、其他本郡至る所處々に尊を奉れる神社多きは、尊が本郡を撫循せられしを物語るものである。

更に秩父郡が歴史上に於て海内無上の光榮を享け、殊に御皇室との交渉深きは四十三代元明天皇の御世に於ける和銅の獻納と今世に於ける秩父宮御宣號の二事である。

即ち元明天皇の慶雲五年正月十一日和銅を獻上す、天皇いたく喜ばれ、之より和銅と改元し、特に秩父郡一圓當年の庸と調とを免ぜられ、優詔を辱ふせる如きは、最も郡民の幸福とせる所であつた。

次に 孝明天皇の御妹君に渡せらるる和宮内親王殿下將軍家茂公へ御降嫁せられ、文久元年十月二十日京都御出發中仙道を経て東下せられたる時、同年九月、横瀬、皆野、黒谷、三澤、大野原、高篠等の各村より多數の入夫本庄町に出でて御用命を完うする光榮を荷つた事もある。

斯く太古より秩父地方と御皇室との御縁は深いものであつたが

更に更に最も深刻なる殊寵を蒙つた事は秩父宮御宣號である。大正十一年六月二十五日、今上天皇陛下第二皇子雍仁親王殿下に秩父宮の御稱號を宣贈せられた、國家の慶事たるは勿論秩父地方民の歡喜措く能はざる所であつた。

宮家の御稱號について此を見るに、多くは關西殊に京都附近の地名によらるるもの多く、只東久邇宮、東伏見宮等一二東京の一字を冠するに過なかつたのである、然し今回第二皇子たる雍仁親王殿下に對して秩父なる御稱號を贈つた事には最も御皇室と關係深い事を示して居るものと恐察する。

即前述の如く古くより御皇室との御縁深く、而かも帝都の中央を流るる隅田川の上流に當る地方であり、且つ帝都の北方を護りつゝ常に帝都より眺まるる秀麗なる山嶺に因まれたる事は何とも由縁の深い事である。恐れ多くも攝政宮を補佐せらるる第二皇子の御稱號で確かに皇室の基をいやが上にも固めとせらるる事が思はるるのである。正に秩父山嶺は遠く外敵を防ぐ城塞の如きもので最も崇嚴にして且つ神聖なるものと言はねばならぬ。

されば、縣郡を通して御稱號奉祝祭は勿論幾多の記念事業も行はれた、けれ共其の最も出色あるものは御稱號記念造林事業である、即大正十一年の縣會に於て決議十二年より三ヶ年の繼續事業として百五町歩の造林を實行し、今や専ら其の撫育に努めて居る。

雜 纂

奥秩父三峯視察旅行會記事

日本庭園協會と、本會と共同主催の下に、舉行された、奥秩父三峯視察旅行會は、七月二十五日より、今月二十九日まで五日間荒川の水源地帯を跋躋しました、先づ順序として、之に参加せられた方々の芳名を左に掲げます

講師

東京市中澁谷外谷四〇三 林學博士 本多 靜 六
東京市外下戸塚五九五 文學博士 龍居 松之助
東京市赤坂區青山南町六ノ一四三ドクトル 本郷 喬 徳
東京市小石川區原町一二 工學士 大江 新太郎

以上述べたる如く歴史上より見るも、亦治水上或は産業方面より見るも帝都と最も密接なる交渉を有するものなるが故に更に一段の努力を以て、之の秀麗なる山嶺の整美につとめ、之を愛護し發展の域に達せしむるは、只に經濟資源としてのみならず吾人の保健衛生上最も重要なものと言はねばならぬ。

埼玉縣山林會書記 小 武 海 勝 藏

甲組

東京市麻布區本村町一四二 林學博士 田村 剛
東京市外中澁谷八三三 工學士 山田 醇
埼玉縣浦和町二〇一七 地方技師 綠川 祿

一般會員及關係者

東京市下谷區上野公園事務所園藝 小川 精一
同市本所區向島須崎町六六 坂入 弓之助
同市本郷區西須賀町 小林 ぶん子
同市麹町區下二番四八 會社員 野 依 望
東京帝國大學農學部林學教室帝大助手 中村 得太郎

橫濱市本町町宮原八八六	官	野	依	力
埼玉縣秩父郡大瀧村	林	大村	與一	
同縣北葛飾郡樓田村	教員	山中	幸長	
埼玉縣廳農務課	同	安齊	謙三	郎
同縣兒玉郡東兒玉村	農	波邊	世仰	
同	屬	池上	福松	
同	技手	稻見	安親	
東京市麴町區富士見町四ノ一〇會社重役		瀧澤	吉三	郎
東京市本郷區弓町一ノ一三	染物業	木村	正夫	
同市下谷區稻荷町九〇	種苗商	谷本	善太郎	
千葉縣成東町	藥劑師	菊地	新一郎	
同縣同町湯坂	公吏	鈴木	嘉八郎	
埼玉縣北足立郡白子村	同	柳下	伊平太	
埼玉縣廳農務課	技手	築山	與一	
同	同	町田	常吉	
同	同	宇田川	傳吉	
同	同	小倉	長作	
同	同	佐藤	己代吉	
東京市深川區東平井町一	帝大生	菊地	武治	
同市小石川區丸山町一一	材木商	加藤	誠平	
同市淺草區福富町一八	材木商	鈴木	市太郎	
同市四谷區新宿三ノ九丹羽鏡之助方學生		丹羽	久雄	

同市小石川區西江戸川町二九	吉田丹次兵衛
同市淺草區福富町二八	鈴木幾太郎
同市本郷區西須賀町一六	小林呈八郎
同所	小林ふさ子
同市赤坂區新町三ノ三九	藤本榮太郎
東京市小石川區原町一三三	小原正男
同市本郷區弓町一ノ二六	小西種忠
東京市外	安藤明
東京府荏原郡大崎町上大崎西ヶ谷二四五	八戸道雄
帝大囀託	
帝大生	長谷川直澄
東京市外目黒町下目黒九六六	松田常吉
東京市外碑倉村碑文谷一八六八學	富岡丘藏
東京市外中澁谷四〇三	鈴木清次
東京府西多摩郡大久野村	黒田開智
東京府下三河島町三三八七	小島新一
東京府下三河島町三三八七	町田義雄
同所	古山國太郎
神奈川縣鶴見町花月園内	小野德風
同縣同町潮田大聖寺	山本直澄
同縣同町潮田南仲通二〇〇九	小野孝風
同縣同町潮田一二三二	吉澤忠行
横濱市神奈川青木町松本一五九二高木方	目黒千代子

千葉縣山部郡片貝村	同縣同郡成東町板附	靜岡市茶町二ノ二九	山梨縣南都留郡谷村町	大分縣中津驛前	群馬縣前橋市田中	茨城縣鹿嶋農林課	埼玉縣北足立郡安行村	同縣同郡戸塚村西立野	同縣同郡大門村	同縣入間郡梅園村	同縣同郡同村	同縣同郡高萩村	埼玉縣大里郡藤澤村	同縣同郡小原村	同縣北埼玉郡田ヶ谷村	同縣同郡同村	同縣秩父郡高橋村	同縣同郡秩父町大學演習林	同縣同郡野上村	秩父鐵道株式會社	日本庭園協會	埼玉縣廳土木課
藥種商	農 業	林 業	園 藝	造園業	種苗商	農林技師	園藝植木	同	同	農 業	材木商	農 業	苗木商	同	植林業	石綿販賣	農 業	帝大生				土木技師
中西忠吉	秋葉谷太郎	木村豐次郎	橫山禮三郎	高木泰造	福田源四郎	吉見辰三郎	中田億右衛門	秋元新藏	早船民五郎	淺見幹雄	新井幸作	井上良太郎	飯野忠次	長倉良八	加藤石太郎	渡邊秀太郎	淺見嘉之助	河内義左衛門	村田三千彥	吉田卯吉	關倫三郎	高田貞一

埤玉縣廳農務課	同	同	同	同	同	埤玉縣山林會
屬	農林技師	技手	技手	技手	技手	
關根孝一	和田敏政	牧野玄達	笠原秀雄	宮崎龜吉	野口三郎	小武海勝藏

七月二十五日　日曜日　晴
昨夜來の雨が、からりと晴れて、秩父の山々は、深い緑の色に蔽はれ、見るから心地のよい旅行日和となりました、長瀨驛に案内所を作り、寶登山神社社務所前の廣庭に、臨時の受附所を設けました。昨夜長瀨に來泊した大分縣の、高木君は別として、本日イの一番に受附に見えたのは、群馬縣の福田君でありました、電車の着く度に吐き出される旅行會員の面々は、漣洒たる洋服の輕装に、リツクサツクの勇しい登山姿で、受附係の前に現はれました、此處にて旅行記章の手拭、旅行圖面、旅行心得、林業要覽、林業統計、安行地方苗木の葉等を受取り、寶登山公園内の休憩所にて時の至るのを待ちました。午後一時寶登山神社本社殿前に集合しまして、本多博士の挨拶に次で、本會綠川技師の旅行説明があり、茲に旅行會として、一同恭しく神前に拜禮をしました、後鹽谷社司より、神社の由來及現況に付ての説明並町重なる御挨拶がありました。

寶登山神社は、日本磐余彦火火出見尊、大山祇命、火靈產命、日本武尊を合祀し、同社の縁記に依りますと、往古日本武尊東夷征伐の歸途、此地を過ぎさせられ、寶登山の嶺に於て籬を立て、皇祖、神日本磐余彦火火出見尊の靈を遙拜せられた時の、玉串を御神體として祭りしに始まるといふことであります。

一行のために、神社よりは繪葉書、秩父鐵道會社よりは、沿線名所圖繪、長瀬遊園地圖、秩父礦物植物標本目錄、長瀬地方地質遊覽案内等の印刷物の御寄贈がありました、夫れより登山公園内の四阿屋にて、社務所より茶菓の接待を饗けまして、午後二時半出發、山腹の回路を通して、分水嶺の突起字十二天に少憩し、此處にて山田講師の地質に關する御講演がありました、十二天は、白布の如き蛭蚓たる荒川を脚下に、秩父盆地より遠く武甲山の雄姿を、双眸に收むる景勝の地點であります、國神村金崎にて、化石陳列館を見學し、尙同所の丸宮工場に立寄りまして、秩父名産の銘仙織の實況を視察し、大勢の女工達が、見る／＼寸尺を織出す其の甲斐々々しき働き振は、頗る熟練して居る様に見受けました、此處にて、氷水の接待に渴を醫し更に國神驛前の坂善工場を視察しました、此處は前者の機械なるに反し全部動力機械を使用し、調帶の廻轉、押の音響々たる中に、數十名の女工が立働いて居ました、此の工場は、秩父銘仙の内でも特種模様と稱する獨特のものを製造するさうで

あります。

秩父銘仙の起源は、非常に古く、景行帝の朝に其の端を發したといはれてゐます、經緯共に玉絲を用ひ純絹にして價格低廉地質堅牢なると尙數回の洗濯によりて一層光澤を發揮して地質を緻密ならしむる特色あるが爲に、世上一般の好評を博し、現在では年産額壹百六十九萬二千七百九十四點、壹千五百拾萬七千四百七十五圓であります

坂善工場を辭して、長瀬遊園地内の礦物陳列所を見物しました、各自標本目錄の番號と照合して、熱心に研究し

「成ほど秩父は礦物の教室だね」

「もう一度悠り見學に出かけて來よう」

など、語るのがありました。

午後四時養浩亭後庭の、林間に設けられた講演會場に集合しまして、秩父鐵道株式會社の清涼飲料の接待に預り、後直に田村講師の秩父風景に關する御講演がありました、講演場の下流が即ち秩父赤壁の稱ある長瀬遊園地でありまして此の日は平生より少しく水嵩が増して紺碧の色も濃く、地理に精通して居る長瀬驛長齋藤君に一々説明の勞をとつて頂きました

薄暮旅館、養浩亭、長瀬館の二手に分宿しました。

七月二十六日 月曜日

午前七時二十一分長瀬驛より一部は國神驛より電車に乗りて出發、同八時九分に武甲山の麓の武甲驛に着きました、秩父鐵道に

ては、影森驛が終點でありまして、其の先は貨物線であります、當日は特に一行のために臨時電車を出して、武甲驛まで運轉して頂きました、武甲驛にて下車、淺野セメント會社の係員、秩父町水道部の係員、兩神施業森林組合の松本組長、甲影施業森林組合の淺見組長各位の出迎をうけ、之より數丁距りたる鍾乳洞に至りました。

鍾乳洞は、影森村大字上影森二十八番橋立寺の所在にあります、武甲山の石灰岩が此所まで延び、絶壁をなして堂後に峙つてゐます、其の下に洞窟が即ちそれでありまして、洞内には大房あり、小房あり之を上り又は下り、短梯長梯を経て、其の間に鍾乳、底鍾、其の他の石灰の洞壁に沈澱して種々なる相形をなしたるものが、可成多くあります

橋立寺を辭して、元の道を戻り更に秩父町水道の貯水池を見學しました。

貯水池は見晴しのよい高臺にあります、沈澱池、濾過池、配水池の三種で、沈澱池は、一萬五千人の給水量、六萬立方尺を貯水し更に一箇の豫備を設けてあります、其の水源は武甲山の南麓より發する、橋立川附近には、埼玉縣造林地秩父農林學校演習林等あり、水量常に豊富であります、秩父町にて此の水道工事を完成するために、工費金三十七萬圓餘を要したといふことあります。

水道事務所前の廣場に一行が休息してゐると、淺野セメント

會社出張所、甲影施業森林組合からの御茶の接待があり、且つ、雨神、廣川原、生川の三施業森林組合よりは手拭、甲影施業森林組合よりは繪葉書の寄贈がありました。

谷を距て、目睫の間にある、淺野セメント會社の、石灰石採掘場にては、本日爆破作業を見せてくれる豫定で、人々は右往左往して居りました、刻一刻其の時を待つてゐますと、合圖と共に一條の白煙上ると見る間に轟然として爆裂しました、續いて十數發、最後に採掘場全面に亘りて一大爆破が現せられ、白煙濛々、岩石の崩るゝ音、等全く天柱挫け、地軸折るゝの壯絶なる光景でありました、之を名残りとして、一行は、電車にて影森驛まで引返し、更に地域の接續する秩父セメント會社の石灰採掘場を見學に出かける、線路傳ひに谿谷に分け入り石灰石積出場のある所より急に胸突の峻路を攀ぎ、武甲山半腹の高さにある箇所に上りました、途々會社の高野君及其の他の係員より詳細説明せられ、歸途には山小屋に休憩中本多博士より、石灰の使用、鐵筋凝土、家屋の構造、木材の節約等に關する、甚だ有益なる御講話がありました、石灰石採掘の順序を概説すれば

壓搾空氣による鑿岩機にて、岩石に穴を穿ち、火藥にて爆破し、之を粉碎機にて適當の大きにし、調帶運搬（調帶に鋼を使用す）により、更に下方に滑落せしめ、索道車にて貨車積場に至る、武甲山は、全山石灰石より成り、其の埋藏量は殆

ど武蔵藏且つ品質優良にして、石灰の含有量は、九十九パーセント當採掘場からは、一日平均六百噸を産出するとの事です、

午前十一時二十九分影森驛を出發、同三十五分秩父驛に下車し直ちに秩父セメント會社に行きました、少憩の後工場視察の前提として、セメント製造に關する工程の断面圖を廊下に掲出し主任技師の方より詳しく説明されました、一組十二人づゝ數隊を編成し、一組毎に一人の説明擔任者をつけて頂き、建坪三千坪其の幅員數丁に亘る、宏大なる工場の、最初の石灰石貯藏所より順次、最後の樽詰、袋入までを見學して、一同食堂に集り午餐の接待を蒙りました。

工場内の工程に付ては、餘りに複雑で之を詳述することは、到底紙面のゆるされざる所なれば省くこととし、只當工場は、何れも最近セメント工業の發達に鑑み、最も優秀なる機械を、世界に定評ある諸製造會社より買入れ、設計及据付には米國の專用技師を傭入れ、且つ廻轉窯の廢熱を利用して、工場内に必要な動力全部の自給裝置を完成して居ります、要するに、現代の科學の粹を蒐め、其の規模の宏大にして、設備の完成せることは、世界有數のものであるとの事です、年産額は八九十萬噸にして、品質の優良なることは、己に皆様の知らるゝ通であります。

食後社長諸井恒平氏は立つて、一場の講話をなさいました、工

場經營の苦心、一種の人生觀、社員待遇方法等につき、専ら經驗を前提として説かれ、要するに、自己の利害を利害とし、上下協力一致して其の職分に最善の努力をなすにあらざれば、有終の効績を擧ぐる事が出来ないといふ意味の様に承りました、本邦實業界の此の巨人の講話には、一同深く感動したのであります。

社宅に隣る噴水地を見ました、數百の龍頭より吐出す水は、雲霧となりて美觀此の上もなく、之は工場内に使用したる熱湯を冷却する所であります、夫より同社からの繪葉書、工場案内等の配付を受け、此處を辭去して、午後二時秩父神社の社頭に至りまして、伊古田秩父町長、蘭田秩父神社司の出迎をうけ、一同併列して秩父町水道の揚水作業を見せて頂きました、水道部員の指揮の下に、ホースは直ちに水道栓に連結せられ、町長一令すれば、二本の筒先より迸出する、白龍は天に沖すること百數十尺、神前忽ち雲を起して、白雲沛然として降る、折からの暑熱頗る去りて、萬解の涼味がありました。

「少し早天が続くと夫れ減水だ、やれ斷水だのと騒ぐ東京市あたりのものとは違つて此方は非常に水量が豊富であります」

伊古田町長は、涼しい顔をして物語りました、夫れより一同、神殿の前に整列して恭しく参拝しました。

秩父神社は、秩父國造知夫彦命及其の祖八意思金命を祭つ

てあります。

午後三時より本社殿裏の、森林内にて、大江講師の「風景と神社建築」と題する場所柄如何にも適はしい、御講演がありました、神社よりは御茶の接待及繪葉書、秩父町よりは、秩父案内秩父町々勢一覽、秩父木材商同業組合よりは、柿羊羹の御寄贈があり、講演後本多博士の挨拶にて、甲組會員の解散式を行ひ午後五時秩父町旅館の竹壽館、秩父館、中村屋の三軒に分宿しました。

七月二十七日 火曜日 晴

午前七時一行は、自働車八臺に分乗して、秩父町を出發しました、道は稍々上りにして、荒川の谿谷に沿ふてある關係から、所々斷崖絶壁に面する所が多く、時に膽を冷やす様なことが屢でした、影森、中川、白川の各村を経て、大瀧村の強石を過ぎ大輪に着きましたのは、八時、此處にて旅裝を整ひ、不要の荷物は總て茶屋に預けまして、朱塗の登龍橋を渡りて、愈々五十二丁の三峰登山道に差かかりました、本多博士のあの便々たる腹の下から、一本の紐が出て其の先きを、一人の壯漢が肩にかけて、引張り上る様は頗る珍であるが、悠々として歩を運ぶのは、樂さうに見えます、清淨の瀧から少しく峻はしくなりまして、たけれども、何れも健脚揃のことゝ誰一人落伍するものもなく、殊に御婦人の方は、やゝもするとリツクサツクの登山子を凌ぐんとする勢ひだから、敬服して仕舞いました、此の道は所謂表参

道でありまして、兩側には老杉巨楡蒼鬱として繁り、若し夫れ境内林に至りては、晝尚暗く巨幹通直枝下數丈なれば、

「まるで竹林のやうだ」

と驚歎したのもありました

午前十一時五十二丁を登りきつて、三峯神社の社務所に着き、健脚家は更に奥の院へ参詣しました、午後一時より、大廣間にて講演會が開かれ、龍居講師の「國史に現はれたる秩父」本郷講師の「神社林に就て」の御話でありました。

三峯神社は大瀧村大字三峯に鎮座し、皇御祖伊弉諾命、伊弉册命、二柱の大神を祀る古社にして、由緒正しく、關東隨一の靈場と稱へられます、奥の宮は妙法嶽の頂上に祀つて、本社より一千尺高い地點にあります

午後四時半一同正式に、本社に参殿し、本多博士、綠川幹事玉串を捧げ一同忝しく禮拜をなし、神社より御供物の外に、三峰神社案内、繪葉書の御寄贈がありました、後本社前に正列し正に記念撮影をなさんとする時、本日より参加する本縣の高田技師、關根屬の兩氏が、箕蓆を肩に金剛杖つきたてゝ來たので、忽ちカメラの中に入りました、撮影の技師は、東京の小西寫眞士でありました、

晚餐は例の大廣間にて、講師初め一同の會食で、河原社司、山中大瀧村長の歡迎の御挨拶があり、神社よりは多分の御神酒を振舞はれたので、好い氣嫌になりました、各自持前の隱藝など

も澤山出ましたが、先づここでは天機を洩さないことにしませう。

今夕社務所にて、奥秩父三峰地方の活動寫眞を、見せて頂き説明などは、中々手にいつたもので友人洗足であります。海拔一千二百二十突の山上に、蚊帳の必要もなく、寧ろ肌寒さを覺ゆる位で、圓かな夢に入りました。

七月二十八日 水曜日 晴

午前五時三峰神社を出發、裏道に出ました、昨夜夕立がありましたが、雲取、妙法の峰層及大洞の豁谷は、更に一段の生氣がある様に見えました、一行の元氣は益々旺盛にして、紫の團旗を陣頭に立て、一氣に大洞川まで下り、奥秩父の氣分は濃厚となりまして、山は愈々深く、水はますます清冷を加へました本流を渡り、二瀬の耕地を過ぎて、麻生の部落に入り、千島義一氏の宅に休憩、茶菓の御馳走になりました、有志の方々及處女會員の厚き款待をうけました、麻生を辭してから二時間後、栃本部落に着き、同地の大村與一氏宅に休憩、サイダーに渴を醫し、且つキヤラメルの御寄贈がありました。

午前十時栃本を出發して、峠路にかゝりました、大瀧村村有林のある所にて小憩、此處にて本會幹事たる緑川技師の「秩父山嶺と帝都」と題する御講演がありました、栃本峠を越ゆれば即ち中津川流域であります、急峻なる坂路を下ること里餘にして鹽澤部落に着き、之れから即ち中津峡でありまして、炭焼竈

のある路傍の一點に休息、鹽澤有志の方々より茶菓の接待をうけ、此處にて畫食の辨當を開きました。

中津峡は十數年前まで、四十八瀬といふて同一の川を、右に左に四十八度渡る難行でありましたが、只今では立派な林道が出来て、思ひのまゝ峽の風物を賞て得る様になりました、一行は今夜の宿泊地たる中双里に向つて、此の林道を辿りました、此の邊から已に、千古斧鉞の入らざる原生林の地帯でありまして其の鬱蒼たる林相、玉を伸へたる如き豁流、幽邃なる大自然に直面しては、何人と雖も驚歎の辭を惜しむものはありません、本多博士は此の一帶の地域を、森林公園として存置するの必要を力説してゐるとのことです、途中、鷹山、瑠璃ヶ淵、三高山、小滑の瀧、折木峠、鶯懸ヶ淵、永世瀧山等の勝を賞しつゝ、午後二時半中双里部落の鎮守の社前に着きました、區長山中平三郎氏其の他の方々の出迎をうけ、社前に休憩直ちに、本多博士の「森林の文化的利用」と題する、本旅行會棹尾の大講演があり例により博士一流の長廣舌を揮つて、聽衆を魅すること約二時間、後各自の感想を述ぶることとなり、大學の八戸氏は、動物愛護の大に必要な所以を例證して説かれ

神奈川縣の山本眞澄氏は

此の種旅行會の極めて、有益であること、自分は一山の住職で多忙の時であるけれども、無理に都合して參加したと述べ區長の山中平三郎氏は

岩茸の採取は命がけの仕事であること、其の所在岩石の方向並岩茸の料理法まで解き

緑川技師は

奥秩父に於る、岩茸、川海苔、鰯は珍味中の珍であること及各其の生狀より採取まで、詳しく説明し

飛入りの佐伯氏は

深山に於て、伐木運材に従事する、林業労働者の現況を述べ國勢調査のときは、秩父の奥に原人が居ると吾々は誤聞せられたと笑せて

何れも大喝采にて終了し、夫れより傾斜面である中双里の部落に案内せられ、山中平三郎氏、山中鶴吉氏、山中定吉氏、山中團十郎氏の四軒に分宿しました、中双里にては、一行七十名位の來泊せらるゝことは、前代未聞の事でありまして、入口には八幡大神の大幟を立て、家々の掃除は行届き、村を擧げて之の歡待に没頭する、其純情には、涙ぐましいものがありました、一堂に集つた晩饗には、例の岩茸に椎茸、山芋、鰯、岩魚、其の他の御馳走が山と盛られ、且つ旅情を慰むるため御酒を出され、此の土地の習慣として、大茶碗一箇づゝを配して、村内妙齡の美人十數名が各々一升徳利を持つて廻り、小々位にては中々承知せず、浪々と一杯酌をする腕の強さには、何れも恐縮しました、酒も肴も好いところへ、美人のお酌に強いられるまゝ陶然として、ソロ／＼出て來た餘興の尤なもの、二三をコツツ

リ御披露すれば、緑川技師の玉を轉かす様な詩吟、中西氏の謡曲、鈴木氏の金山唄、柴崎氏の甚句等であります。

午後九時寢につき前の小川の流れも算の音も、間もなく聞えなくなりました。

七月二十九日 木曜日 晴

中双里から尙奥の、中津川、秩父嶺山方面を探勝する希望者十名ありましたから、此の組には、本會の野口技手が東導して出發し、本隊は午前六時辭去して、昨日來た道を下りました、薄霧のかゝつてる樹の間を、露の滴る山道で、流れに河鹿の音を聞く、朝の中津峡は又格別の趣きがあります、鹽澤までは、再び探勝の復習をして、中西君に小野君は、之をレンズに收むるため、大活動をする、鹽澤からは、一路中津川に沿ふて下り、竹木、鴉平の耕地を経て、荒川本流との合流落合に着きましたのは午前十一時であります、此の間の途中に、珍らしく小雨ありましたけれども別段大したこともありませんでした。

落合にては、大瀧村長山中宗治氏のお宅に寄り「メタン瓦斯」の裝置を視察し、詳しく説明を聞き、同氏方にては、此の瓦斯にて、燃料と燈火の自給をしてゐるとの事で、現に瓦斯コンロに依つて溫暖られた、乳汁を頂きました、此處にて畫食をなし、直ちに出發し大輪に着いたのは、午後一時、何れも荷物を取纏め、豫ねて用意の自働車に、分乗しました。

さらば、奥秩父、懐かしの奥秩父！さらば！

午後二時半影森驛にて下車したる一行は、驛前の廣場に集合し本多博士より無事此の行を終りたる懇篤なる挨拶あり、本會綠川幹事よりも一場の挨拶ありて、後小西種忠君發聲の下に、日本庭園協會、埼玉縣山林會、旅行會員の萬歳を三唱して茲に目出度解散することゝなりました

二十九日鹽澤にて分れたる野口組の一行は、中津川部落に出で幸島敬三氏宅にて款待を受けたる後、秩父鐵道山を視察し、三河峠の胸突八丁を越して、三田川村大字河原澤に出て、同地の坂本屋に一泊し、此日の行程約十二里途中は、可なり險難の山路なりしも、人跡稀なる眞正の奥秩父の探勝を欲いまゝにしたさうです、翌三十日には、赤平川沿岸を下り小鹿野町に入り、同郡より自動車にて、長瀨驛に至り、此處にて元氣よく、解散しました。

◎旅行會幹旋金品寄贈

著芳名錄

本旅行會に付き、御多忙のところを御都合して頂いた各講師、又御後援と多分の御配慮を煩したる、秩父鐵道株式會社、秩父セメント株式會社、三峰神社、寶登山神社に對しては、深く感謝する次第であります、尙物品寄贈、茶菓接待、御迎御案内等種

々幹旋歡待せられたるは

秩父鐵道の柿原事務殿、齋藤長瀨澤長殿、秩父神社々務所各位
秩父町長伊古田豊三郎殿、外役場各位、秩父材木商同業組合、
秩父演習林所長竹内義左衛門殿外各位、兩神廣川原生川施業森
林組合長松本仙三郎殿、同忍足芳助殿、甲影施業森林組合長淺
見廣治殿、淺野セメント株式會社影森出張所各位、大瀧村長山
中宗治殿、柴崎書記殿外各位、三峰神社黑澤勝郎次殿、千島義一
殿外各位、大村與一殿外各位、鹽澤有志各位、中双里山中鶴吉
殿、山中平三郎殿、山中定吉殿、山中團四郎殿外各位、幸島敬三
殿、山中幸長殿、坂本豊三郎殿、丸宮工場殿

一金貳百圓也

三峯神社案内繪葉書御供物

一金五拾圓也

繪葉書

一金百五拾圓也

秩父鐵道沿線名所圖繪長瀨澤園地圖繪
地質遊覽案内秩父鐵道標本目錄

茶菓饗應

一金百五拾圓也

繪葉書、會社案内

午餐及茶菓饗應

三峯神

寶登山神社

秩父鐵道株式會社

秩父セメント株式會社

一茶菓饗應、繪葉書

一柿羊羹

一茶菓饗應

一同

繪葉書

一手拭

一茶菓饗應

秩父神社

秩父材木商同業組合

淺野セメント株式會社、影森出張所

甲影施業森林組合

兩神生川廣川原施業森林組合

大瀧村麻生千島義一氏外各位

一同

一同印刷物

一同

一同

一秩父案内、秩父町々勢一覽其の他印刷物

一茶菓饗應

同村栃本大村與一氏

秩父演習林

大瀧村鹽澤有志各位

大瀧村 山中宗治氏

秩父町

國神村 丸宮工場

群馬縣森林組合視察

宮崎龜吉

本會主催の森林組合長視察旅行は去る七月八日より十三日迄三日間群馬縣下に決行せるが、參行者は左の四名にして小生も御同伴幹旋の役を承つた。

比企郡 平 村 西平施業森林組合長 武井 禪 忠
秩父郡 秩父町 兩神施業森林組合長 松本 仙三郎
同 槻川村 栗和田施業森林組合長 福島 隆 策
同 影森村 甲影施業森林組合長 淺見 廣 次
次に旅行日程、視察概要及所感の三段に分ち記述せん

其の一 旅行日程

七月八日、晴

午前八時三十分熊谷停車場集合、本會幹事綠川技師より挨拶並希望ありて、同五十分發列車に乗り、十時三十分高崎驛に着く倉田群馬縣農林技手の出迎を受け小憩後自動車にて室田町に向ひ正午同町着自動車を棄て、出迎の榛名山組合長と共に組合地區を倉田技手の説明を聴きつゝ榛名山へ登る、午後四時榛名山町に到着し少憩の後同組合状況の視察を了へた頃は榛名山町は綠濃き山に包まれ風いと涼しく自然の靜寂其のものに抱かる吾等の幸福何にか例へん、勞なくして樂しかず輕き勞れに汗ばみし體を坂上の山水樓に運ぶ夕陽靜かに山の端に沈む數日に亘

る旅行をして意義深からしめよ。

七月八日、晴

午前七時出發組合長其他幹部の人達と共に、更に組合地區を視察し榛名山神社に詣で、一同涼を入れて出發榛名山湖畔に至り湖畔亭にて中食、湖を縦斷し沼尻に上陸群馬縣造林地を賞揚しつゝ、辨天の瀧(伊香保名所の一)に至り伊香保町營の發電所を視察し午後三時半伊香保町へ着、塚越ホテルに泊る、一同入浴する事數十回終日旅行の勞を慰す。

七月九日、晴

伊香保町迄態々出迎として登山せられた、群馬縣名久井農林技師大野森林組合長と共に、午前七時三十分出發直ちに同組合地區に入り、名久井技師の説明とともに地區内の實況を視察しつゝ、澁川町に至り、大野施業森林組合に至り視察した、此處に於て漸く吾人の任務は完く了へた、午後一時發にて歸途についた榛名おろしの涼風に身心愈々軽く足並軽く疲勞の影すら見へない、未だ伊香保の景、黄色の湯等に心残れる感ありしが、何れも勇氣を鼓して歸られた事は、祝福せねばならぬ。

其の二 視察組合の概要

前記各地に於て實地視察及説明せられた、概要を一括して摘録すれば左の通りである。

(一) 榛名山保護土工森林組合

十月設立の認可を得たのである

(二) 組合設立後の森林狀況

當組合は森林火災の絶對防止を、主要目的となし、其の目的を達成するために、地區の周圍並に地區内樞要の地點に防火線七千七百二十四間を設置し専ら野火の延焼を防止すると共に地區内森林を三小區に區分して一區に各二人宛の監守人を配置し常に擔當の區域内を巡邏監守に任せしめ、野火盜伐を豫防せしめた防火線の設置及森林監守人の配置によりて、盜伐野火を絶滅することを得た故天然生雜木繁茂する様になりたれば一面兎の繁殖盛となりて、植樹及萌芽を食害するにより狩獵法第十二條に依り有害鳥獸捕獲驅除を出願し森林監守人には銃器を携帯せしめ、組合員には良を懸けしめ且つ之を捕獲したる者には兎一疋につき金拾錢の獎勵金を交付して捕獲驅除せしめたるによりて近年其の被害は減少し地區は鬱蒼たる林相を呈するに至つた。

林道の改修並修繕は創立當時に於て相當計畫を樹て、着々實行中であつたが、年と共に其の完成は地區内至る處車の通ぜざるはなく幹線の如きは昨年度に於て縣道に編入せられ、林産物の搬出極めて便利となり従て價格の向上をなさしむる等にて組合員は組合の効果に感謝しつゝあるの狀況である

(二) 大野施業森林組合

本組合は明治四十五年七月二十九日の創立にして、事務所を

本組合は、明治四十一年十月の設立にして全國中尤も古き組合である、事務所を群馬縣群馬縣田町大字榛名山町に置いて榛名山一帯を地區として、其の廣さ二百五十八町餘を占め、森林危害の防止林産物の搬出を容易ならしむるため、火災盜難の防禦害鳥獸害蟲其他有害物の驅除豫防、林道の改築及修繕等を行ふて居る、更に組合設立の動機及其の當時の森林狀況、設立後の森林狀況を項を別ちて述べれば次の様である。

(一) 組合設立の動機及其の當時の森林狀況

組合の地區である榛名山は、慶長以來縣社榛名山神社の御朱印地として全山杉扁柏、羅漢松等鬱蒼として繁茂し、大なるものは周圍二丈餘小きものと雖も三四尺を下らない實に稀有の美林であつた、然るに明治維新の際諸制度改革せられ、御朱印地の返上を命ぜられ官有地に編入せらるゝ事となつた、爾後明治八年舊來の緣故によりて無償にて榛名山住民に之を拂下げ民有地となる茲に於て斧斫時を失し亂伐に亂伐が行はれ、數百年來の美林も一朝にして跡を絶つに至つた、爾來造林を怠り荊棘雜草瀰漫に任せ、野火相次て起り森林愈々荒廢し水害頻りに至る、先覺者之を憂ひ僅かながら造林を試む者あるも、區々たる施設を以て全局の目的を達する能はざりしに偶々明治四十年森林法發布せられたるを機として土地の有力者佐藤顯三氏發起となりて、荒廢せる森林を回復し又た荒廢せんとする森林を防止し林道の改修及修繕をなす目的にて組合設立を申請し四十一年

群馬縣群馬縣澁川町三百六番地に置き、地區は澁川町伊香保町金島村の二町一ヶ村に亘り面積三百八十町八反三畝十九歩にして組合員七百五人を有し、森林の荒廢を防止し其の利用を國七保安に適合せしむる様になし造林伐木造材運材産物の處分並に保護森林經營と相反せざる土地の利用等を主要事業として經營して居る、更に其の内容に就て視るに

(一) 組合設立の動機及其の當時の森林狀況

本組合地區は古來澁川町豊秋村古卷村伊香保町金島村の二町三ヶ村即ち舊二町七ヶ村の入會地にして地方民の草刈地たりしに明治維新の大改革と共に山野悉く御料地に編入せられた、然るに明治二十五年奈良縣吉野郡の人士倉庄三郎氏來たつて該土地の一部を供地し舊二町七ヶ村の承諾を得て植林經營をなさんとせしに緣故關係を有する地方民は祖先傳來の草刈地へ植樹せしむるは頗る不利益なりと異議續出して容易に決定せざりしが先覺者は大に之を愚論し遂に之を承諾するに至つたのである、之れ即ち本組合の成因にして山野を空しく雜草荆棘に委し土倉氏の經營を傍觀するの秋にあらざるを知覺し一方縣の植樹獎勵せらるの時なれば廿五年十一月借地願を其の筋へ提出し二十六年四月十日に至り願意聽許せられ、爾來造林を行ひたるも成績良好ならざるを以て三十二年四月造林組合(申令に依る)を設け雜木採取を禁止し自然木の撫育に努めたるに豫期の結果を収むる能はざるにより、岸榮太郎外十一名發起となり國土保安上

森林の荒廢を防止し且つ森林利用を目的とする施業森林組合の設立許可申請を其の筋へ提出するに至り、四十五年七月二十九日許可せられ、後ち幹部の専心事業の遂行に努めたる結果、茫々たる原野は鬱蒼たる森林を形成するに至つた、然れども本施業は合理的ならざるが故に縣の指導に依り大正七年に施業案の編成を行ひ本業の遂行をして完全ならしむるを得たのである。

(二) 組合設立後の森林狀態

本組合地區を大體に於て前山後山の二團地に別ち前山團地は針葉樹、後山團地には闊葉樹の造林撫育をなしつゝあり設立當時の造林は夫々伐採を行ふに至り極めて法正的林相を呈し團體的經營のものとしては稀に見る美林とはなりぬ、而して地方造林の羅針となり一般に之を呼びて模範林と稱する由である。

其の二 視察 所感

前述せる所は二組合の主要に過ぎぬのであるが之を要するに此の二組合共に設立後相當の年月を経過し居るを以て榛名山土工保護組合にありては個人有の山野を統一保護を加へ完全なる林相を呈せしめ林道の完成を計り從來歩道として困難なりしを自動車を通ずる様改修を行ひ亦た大野施業山林組合に於ては少數の人を以て造林し能はざりし草生地を組合の力によりて鬱蒼なる森林狀態になし遂げたる等團體の力量を遺憾なく發揮せるは誠に賞揚すべきであると思ふ。爾て本縣の各組合を觀るに設

立後日尙淺きも一般に各組合地區共土地概ね肥沃にして組合員又た結團力決して乏しからざるを以て今後組合幹部の持續的懇切の誘導と組合員の自覺とにより林地利用の完業を期し組合の發展を圖るは勿論、國土保安治水に力を致し國家富源の増殖に意を用ひられん事を望む。

◎ 林務主任官會議

地方林務主任官會議は四月二十二日より六日間農林省會議室に於て開催、本縣より綠川技師出席せるが、各府縣林務主任官參集し、又北海道廳及樺太廳、臺灣總督府並關東廳等の各主任官も出席農林省よりは平熊山林局長及佐藤公私林課長其他の列席ありて會議の第一日には劈頭平熊局長の説示ありたる後會議に入り、午後農相の訓示があつた。而して諮問及協議事項等は左の通りである。

諮問事項

一、山村振興上將來施設すべき事項に關する意見
二、森林及林業の現狀に鑑み森林法並之が關係法規中改正を要する事項に關する意見

協議事項

一、民有林利用改善に關する件
二、治水其他國土保安並水源涵養上重要な關係を有する公有林

野施業促進に關する件

三、地方稅整理に關する件

四、山林會に關する件

五、山村に關する調査の件

六、漆樹増殖に關する件

尙ほ平熊局長の本會議の席に述べられたる説示事項を掲ぐれば次の通り

茲に大正十五年度各府縣林務主任官會議を開催するに當り、一言所懐を述べることを得るは洵に欣幸とする所なり

大正十四年度に於ては行政整理の跡を承け、林政に關する豫算も相當の削減を見たるを以て、其間に處して諸君の嘗められたる困難は察するに餘りあり、然れども幸に諸君の努力に依りて望外の成績を擧ぐることを得たるは喜に堪へざる所なり、而して國內林業の現況を見れば自今考究施設すべきもの益多きを加ふるに至れるが故に本年度に於ては更に一層の努力を以て林政の振興を期せられむことを要望して止まざるものあり。

今我國内地に於ける森林の狀況を見るに其の生産する處の需要を充すに足らず、年々多量の輸入材を迎えて辛して需給の均衡を保ちつゝあり。

近時に於ける我國内地一ヶ年の木材需要量は用材及薪炭材を併せ立木材積にて約一億九千萬石と推算し得べく之に對する現時内地の合理的供給量は約一億三千万石に過ぎず、輸入量は

約三千万石なるを以て民有林は年々約三千万石の過伐となるの計算なり、而も森林に對する施設の現狀を以てすれば木材供給の増加は其需要の激増に伴ふこと能はざるに由り、森林原本の侵蝕は年と共に益甚だしからむとす、局に森政に在る者深く此點に考慮し速に局面の轉回を策し森林の増殖又は粗惡林相の改良に力め木材需給の大計を完ふすることを期せざる可からず。惟ふに國有林並御料林に在りては夙に既定の施業方針に基き經營の歩を進めつゝあり、又公有林に對しては治水事業計畫に依る造林の外更に公有林野官行造林計畫を樹立して漸次木材の増産を圖るに努めつゝありと雖も木材供給の安全を期せむとせば國內林野の半を占むる私有林野の増殖改善に俟たざるべからざるもの甚だ多し、仍て本省に於ては將來の施設に付き考慮を進めつゝありと雖諸君に於ても私有林所有者の自發的奮起を促すは勿論之に關し適切なる施設を進められんことを望む。

更に方今林政上重要となりたるは山村振興の問題なり、而して山村の振興は一に林業の伸展に俟たざるべからざるを以て本省に於ては深く此點を考慮したる結果、本年度以降林業共同施設に關する經營を計上し又山村住民に密接なる利害關係を有する關稅、所得稅、其他地方稅の制度に付ては林業者に有利なる改正を見更に森林火災保險に付ては之が促進に必要な事項の調査に付經費を計上するに至れり、

右の外保安林制度の林業者に及ぼす影響森林金融に關係を有

する立木登記等の事項に付ては目下失々調査を進めつゝあり。要之山村の振興は諸君の努力に俟つて施設を進めざるべからざるもの甚だ多きを以て諸君に於ては常に之に關し充分なる研議を進められんことを望む、以下森林政策上重要な事項に付き説述せんとす。

一、木材關稅に關する件

木材の輸入は比年多きを加へ本邦林業に及ぼす影響漸次深刻ならむとすに至り、殊に輸入材の材種中小角材は我國内の需要に對し大部分民有林より合理的に生産することを得るものにして之を多量に輸入するは結局民有林業を脅威する所以なるを以て從來の課稅範圍を擴張して一五〇ミリメートル以下の輸入材に對して新に課稅することとせり、固より之のみに依りて民間林業を充分保護し得るものと謂ふを得ざるも亦以て相當の好果あるべきを信す。

二、民有林利用改善に關する件

近時地方山村に於ける經濟の狀況に徴し之が振興に付施設すべき事項多しと雖も我國林業經營の現狀に鑑み民有林の利用を改善し其經營の歩を進むるを以て焦眉の急務と認め、大正十五年度以降十年を期し百四十九萬餘圓を支出し以て林道、貯木場及木炭倉庫の共同施設に對し新に獎勵金交付の途を開き近く之に關する省令を發布せむとす、諸君は宜しく趣旨を體し各地方の實情に鑑み銳意之が施設を勸説獎勵し以て此目的の完成に盡

力せられむことを望む、尙之が旅行方法に付ては別途協議案を提出せるを以て慎重考究を遂げ施行上遺憾なきを期せられたし三、郡役所廢止後に於ける部落有林野管理に關する件
郡役所廢止市町村制の改正に依り、市町村有林部落有林野の管理に付ては認可、許可等を要せざるに至りたるを以て其管理經營に關する指導監督を怠るに於ては治水其他國土保安上に重大なる影響を及ぼすの虞あるのみならず、林業振興上憂慮すべき事態を生ずるに至るなきか、指導監督の周到を期せられんことを望む。尤も從來専ら部落有林野統一及入會整理の爲にする郡長、郡書記の旅費補助も將來は府縣の吏員が從來郡長郡書記の執りたると同様の事務のため出張する場合の旅費に對し從來通り補給の豫定なり。

四、公有林野官行造林地選定標準改正の件

五、保安林の施業方法指定に關する件

保安林に付ては尙幾多の懸案ありと雖就中考慮を要するは保安林の編入並施業方法の指定なり、保安林の編入並施業方法の指定如何は森林所有者に痛切なる利害を與ふるものなれば之が決定に當りては公益と所有者の利益とを調節する上に於て充分なる技術的考慮を拂ふを要す、殊に施業方法の指定に當りては出來得る限り所有者の苦痛を少くして能く其効果舉ぐるに努めざる可からず、之が取扱方法の現狀を見るに未だ充分なりと謂ひ能はざる點少なからざるを以て更に一段の留意と考究とを加へ

られむことを望むなり保安林の並入並施業方法の指定
六、山林會に關する件

地方林業振興上重大なる使命を有する山林會は今や沖繩縣を除き各府縣に設置せらるゝに至りたるは誠に欣ぶべき現象なりと雖其内容又は活動の狀況を見るに尙未だ充分なりと言ふを得ざるものあり、近時財政緊縮の結果山林會に對する補助金漸次減少の傾向に在るは諸君と共に遺憾とする所なるが地方山林會に於ては銳意積極の方策を講じ以て基礎の鞏固を圖るに一段の努力をなすを要すへし、而かも斯界振興の要諦は其活動形式に流れず、務めて林業上實際的の指導に任し會員をして團體的活動の効果を體得せしむるに在るを以て持に此點に留意し適當なる措置を講ずるの要ありと認む。殊に從來直接私有林指導啓發の衝に當りし郡役所も近く廢止の運命に在るが故に地方山林會の使命益々重きを加ふるに至れり、諸君須く一層の考慮を拂ひ適切なる方策を講じて斯會をして益々健全なる發展を遂げしめ地方林業振興上奇與する所多からむことを望む。

◎造園講演會

本年五月二十日より五日間、埼玉縣商品陳列所に於て、盆栽花卉、庭園樹等の陳列會あるを機とし、本會にては、造園講演會を浦和町調神社々務所に開催することにしました。

大正十五年五月二十二日當日は、朝來より曇り勝にて、天候甚

だ氣遣はれましたが、果然正午頃より豪雨沛然として至り、境内の老樹は雨に烟りて、一段の幽寂さを加へました、然るに定刻午後一時までは、聴衆踵を接して來り、流石に廣き社務所の廣間も立錫の餘地なく、新興の浦和町としては、如何に時宜に適したものであるかと思はれました。

本會緑川幹事の開會の辭に次で、造園界の權威、東京高等造園學校長、林學博士上原敬二先生は、壇上に立つて「文化生活と庭園」と題して、雄辯二時間に及び、満場の喝采を浴びて降壇すれば次に

東京造園學校講師小山澤水先生の、「盆景の民衆化」と題する講演に移り、引續き同氏の盆景製作の實演をやりました、僅か數枚の古新聞紙が、見るまに、バルブ状に變り、氏の指頭の動く所忽ち山となり川となり、海洋現はれ、巖を點し、草木生すると其の敏活にして、優秀なる技術は、觀者を酔はしめ、暫くの間全く感激の聲を發するのみでありました。

午後五時閉會を告ぐ、特に本日は聴講者に對し、造園の眞諦と造園教育、造園設計業務の組織化、安行地方植木の渠等の印刷物を配付しました。

◎桐製品講習會開催

客年九月南埼玉郡柏壁町に於て、桐製品講習會を開催したるに

其の結果著しく同地の筆筒の聲價頓に上りたるため、本年八月二十二日同町小學校本校舎及雨天體操場を、講習會場として開催、講師は前年同様東京市の松本朝之助氏外助手三名で、講習生は七十六名あつた、材料は各自持寄にて毎日朝早くより遅くまで、熱心なる講師の指導にて、元氣よく且つ競争的に仕事に従事する有様は實に活氣横溢の趣であつた、斯くて八月二十九日の講習終了となるときは、講習の結晶なる、見事なる筆筒一組宛て、之を會場に陳列して、翌三十日講習終了式を舉行した、

當日本會より、綠川幹事、小武海技手出席、其他粕壁町長、小學校長、商工會長、新聞記者、筆筒業有志等約三十名參列午前十一時開會の辭に次いて、綠川幹事より講習證書を授與し、尙本會々長代理として一場の訓示あり、松本講師は講評と共に、當業者に對する希望を述べ、來賓の祝辭の後に、講習生總代新井久次郎君の答辭があつて式を終つた。

今回の講習生は、何れも若手揃で講習會で會得した、技術を、大に練磨して粕壁筆筒の聲價を向上せしめなければならぬと、力んで居るほどだから、將來極めて有望である。

◎郡役所の廢止と本會

本年六月三十日限り、郡役所の廢止せられたことは、地方行

政方面の一大變革であります、定款に規定してある通り、地方委員長(郡長)地方書記(郡書記)等は郡役所内にありて、何れも本會事務に従事せられましたが、之が廢止となりましては、地方委員長も自然消滅といふ事になりました、右に付地方事務引繼として、小武海書記、稻見書記が各郡に出張して、左記の通事務の引繼を了しました。

六月十九日 北足立
六月二十二日 入間 南埼玉
同 二十三日 比企 北埼玉
同 二十四日 兒玉 大里
同 二十五日 秩父 北葛飾

尙郡廢直後、本會地方事務の取扱に付ては、左記の通各地方委員の方々に、御願をすることになりました

拜啓向暑の御慶々御清勝奉賀候緒而本會今日の發展を來たしたるは、創立以來各位の一方ならざる御盡力の賜と常々感佩致居候而して林業界の趨勢に鑑み時代の要望に副はむとする施設の益々多事なるの時に方り本會地方委員部たる郡役所の廢止に際會致候從つて地方委員部事務の一部を町村委員に御願ひするの己むなきに立至り就而は將來左記要項に依り本會事務を處理致度候間倍舊の御後援相願度右御依頼旁々此段得意候也 敬具

大正十五年七月 日

埼玉縣山林會長 齋藤 守 閣

埼玉縣山林會地方委員殿

◎山林所得稅改正の實現

以上

- 一、町村委員部にて取扱ふ本會事務は左記の通に候
- イ、會員の申込に關すること
- 町村内の林業關係者にして未だ本會に入會せざる者多數あるを以て之等に對しては機を見て御勧誘相成たし
- ロ、釀出金の(會費、寄附金)收納
- 會員の釀出金に對しては、本會より納額告知書を發すべきに付右に依り收納せられ度
- ハ、會員の異動

會員死亡の場合は速かに本會に通知し尙其の相續人に對しては新に入會せしむる様御配慮相成度會員居所に異動ありたる場合は其の旨御報告せられたし

二、町村委員部の會務處理に要する支出金は受領済に係る金員の一割に相當する金額を以て打切計算に可致候

三、町村委員部に於て收納したる現金は一割の交付金を差引き毎月十日までに送金仕譯書を添付し會長に進達せられたし

(送金仕譯書は本會より後送)

四、送金の場合には可成左記御利用相成度

武州銀行特別預金口座一、二三五號
振替貯金口座東京六六、八二二番

山林所得稅改正に關する經過

多年の懸案でありました、山林所得稅改正の問題は、遂に其の一部を實現するに至りました、本會は多數の山林所有者と、其の喜びを分つと共に、一面各關係者に對し左記通經過報告を致しました。

山林の所得といふものは、他の所得と異りまして、毎年生ずることは、極めて稀であります、通常數年又は數十年に、一回生ずるを例とします、然るに、從來の所得稅法に依りますと、此の山林所得特有の關係を、顧慮しませむで、連年的收入を得るものと同一の、累進稅率を適用することの苛酷なるは、申すまでもないことであります、故に全國的林業家は、猛然として起ち、之が改正を企圖した次第であります、即ち山林の收入は十年に一回生ずるものと假定しまして、其の所得の十分の一の所得に相當する所得稅額の十倍とすれば、他の所得との權衡もとれ稍合理的のものと認めまして、全國山林會聯合會に於て決

議すると共に、各政黨本部及貴衆兩院議院に印刷物を配付し、極力目的の貫徹に努めました。

第五十議會に於きまして、全國山林會聯合會特別委員村山代議士の名により、議會に提出されましたが、當時の議會には、普選及貴革の二大懸案あり、且つ政府は、行財政整理、歳入出緊縮をなしたため、洵に悪い時期でありましたけれども、關係各民の大力により、衆議院に於ては、大多數を以て通過するに至りました、而して直に貴族院に、回付せられましたが、會期切迫のため、遂に通過を見るに至らなかつたことは、甚だ遺憾の事でありました。

第五十一議會に於ては、前同様の運動を開始したのであります。か、當時政府提出の案は聯合會決議のものとは、相當の隔りはあるけれども、從來のものより、餘程緩和せられ全國林業家の希望の一部を、取入れてある關係上、之を通過し、愈々本年三月二十七日法律第八號にて、所得税法の改正を見るに至つた次第であります。

今實例を擧げて、新舊兩法を比較し、最後に、改正案に對する濱口藏相の説明を掲げます

所得税法 (抄)

第十四條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ算出ス
一、二、略
三、山林ノ所得ハ前年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル

金額(以下略)
第二十三條 第三種ノ所得ニ對スル所得税ハ所得金額ヲ左ノ各號ニ區分シ遞次ニ各税率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ山林ノ所得ト山林以外ノ所得トハ之ヲ區分シ各別ニ税率ヲ適用ス
(以下略)

第十四條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス
一、略
二、山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

(以下略)
第二十三條 第三種ノ所得ニ對スル所得税ハ所得金額ヲ左ノ各號ニ區分シ遞次ニ各税率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ山林ノ所得ハ山林以外ノ所得ト之ヲ區分シ其ノ所得ヲ五分シタル金額ニ對シ此ノ税率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其ノ税額トス
千二百圓以下ノ金額百分ノ〇・八
千二百圓ヲ超ユル金額百分ノ二
(以下略)

山林ノ所得金額	舊法	新法	差引
八千圓	二、〇〇〇	一、八〇〇	二〇〇
五千圓	一、〇〇〇	九〇〇	一〇〇
二千圓	五〇〇	四〇〇	一〇〇
一千圓	二五〇	二〇〇	五〇
五百圓	一二五	一〇〇	二五
二百圓	六二・五	五〇	一二・五
一百圓	三一二・五	二五	二八八・五

議會を、東京府立商工獎勵館に開催せられ、本會より緑川幹事出席せるが、當日の協議事項左の通りである。
一、木材關稅に關する事項
二、山林所得の經費控除率に關する事項
三、山林に對する土地賃賃價格調査方法に關する事項
四、森林に對する相續税に關する事項
五、木材及木炭の鐵道運賃輕減に關する事項
六、電氣事業法及電信電話線建設條例改正に關する事項(大和山林會提出)

補助金交付さる

大正十五年度本會施設事業に對し、農林大臣より、六月十九日付にて、金八百圓、又本縣知事より五月五日付にて、金八百圓を何れも交付されました。

特別會計豫算

日本庭園協會及本會共催の下に、奥秩父三峰視察旅行會を組織することになりました、其の所要經費に對して、左記の通り、豫算を編成し、本年六月五日付にて、各評議員に、書面表決を求め、其の結果大多數にて、原案の通確定しました。

全國山林會聯合會協議會

本年四月二十八日午前九時半より全國山林會聯合會臨時聯合協

特別會計

大正十五年度埼玉縣山林會
歳入歳出豫算

歳入ノ部		歳出ノ部	
科 目	本年度 豫算高	前年度 豫算高	比 較
第一款 寄附金	五五〇	五五〇	増
計	五五〇	五五〇	増
科 目	本年度 豫算高	前年度 豫算高	比 較
第一款 講演會費	五五〇	五五〇	増
第一款 寄附金	五五〇	五五〇	増
計	五五〇	五五〇	増
第二款 雜費	一八〇	一八〇	増
計	五五〇	五五〇	増

理由
本年七月下旬五日間の豫定を以て奥秩父、三峯視察旅行會を開催し井下東京市技師、山田、大江各工學士、本多田村雨林學博士、本郷ドクトル龍居文學士等の各講師を招聘して隨所講演會を開く豫定にして右に要する經費の一切を計上せり

◎柿原定吉氏の逝去

本會理事にして且つ副會長でありました、秩父町の富豪柿原定吉氏は、豫ねてより狭心症を病み、本年六月十四日遂に逝去せられたる事は、追悼の至りであります、氏は高等商業の出身で夙に實業界に身を投じ、専ら秩父の開発に生命を捧げ、其の猷身的努力と温厚篤實にして、公共事業に熱誠なる、人格者としての氏は、郷黨の人々の常に敬愛するところでありました、生前氏は公共的に或は事業界に、其の職を盡されたること頗る多く其の一、二を挙げれば、秩父町助役、埼玉縣會議員、埼玉地方森林會議員、西武銀行頭取、武藏水電株式會社監査役、秩父林業株式會社社長、秩父製鐵會社社長秩父木材株式會社社長秩父製鐵合資會社社長等にして、先年林業に對する功勞顯著なるを認められ、大日本山林會總裁宮殿下より、有功章を授けられました。

◎毛斯倫寄贈

元本會理事柿原定吉氏の葬送に參列したる、本會緑川幹事の齋した毛斯倫一疋を、埼玉學園に寄贈しましたところ、右は早速園児の帶に利用するからとて、同學園長高師佐太郎氏より喜び

の挨拶がありました。

本會人事

大正十五年七月五日
本會書記ヲ囑託ス

埼玉縣屬 池上 福松

入會者及資格變更

名譽會員

兒玉郡本庄町 戸谷間四郎
同郡若泉村 原利平
同郡同村 貫井清憲
郡郡丹庄村 高橋守平
同郡本泉村 木村軍平
同郡東兒玉 安齊謙三郎
同郡七本木村 大林良作
兒玉郡本泉村 木村孫平
同 同 長谷川鶴松
同 同 今井源五郎
比企郡平村 西平施業森林組合
兒玉郡本泉村 木村金八

特別會員

通常會員

同郡本庄町 戸谷六三郎
入間郡梅園村 新井實造
同郡原市場村 森正樹
北埼玉郡長野村 高澤俊徳
北足立郡大和田町 谷山元忠
兒玉郡本泉村 櫻井虎次郎
同郡同村 茂木丈作
北足立郡安行村 中田億右衛門
大里郡花園村 長島半平
同郡花園村 大野藤平
同郡同村 戸塚かく

會員計音

通常會員

倉持治助 伊藤保造
關口金三郎 今村惣衛工門
千野五兵衛 戸野倉重藏
長島代次郎 大野茂平
戸塚ふく 市川三吉
市川忠一 原藤吉
森田七郎 櫻井角太郎
加藤福太郎 島田秀吉

特別會員
名譽會員

本橋 太郎平	矢作 治平
矢島 熊太郎	萩島 高三郎
齊藤 牛十郎	中村 甚左衛門
田島 米三郎	岡部 伸太郎
柴崎 条吉	
柿原 定吉	名譽會員 山崎 啓藏

會 告

本會報掲載廣告料左の通、會員其他の廣告利用方を希望します
但し會員は規定の二割引

五號活字(二十四字詰)	一回
四分の一頁	貳圓五拾錢
半頁	四圓
一頁	八圓

◎編輯だより

本會報第九號は秩父探勝號とし、主に奥秩父探勝旅行講演會に
關する記事を掲載する事にしました。而かも本會が日本庭園協
會と共に、之の旅行講演會を開き、本縣下の名勝地を廣く天下
に知らしめ得たる事は最も幸とせねばならぬ、殊に本年は近年

稀なる暑氣であつたに拘はらず、あの七月下旬旅行會當時の天
候は洵に申分なく、而も全く何一つの故障も起らなかつた事は
洵に恵まれたる事と思つて居ります。而して本會報は九月發行
の豫定でありましたが、原稿取纏めに案外日月を要し後れたる
事を謝せねばなりません、殊に當時の講師でありました、大江
先生の方が甚だ後れて止を得ず次號に載する事に致しましたの
は甚ば遺憾とする所であります。次號は來春三月發行の豫定で
すが會員諸君に於かれましても、繼續談其他御投稿あらん事を
希望致します。

大正十五年十月十五日 印刷
大正十五年十月十七日 發行

編輯兼 發行者 埼玉縣山林會

印刷人 山本 堅太郎
埼玉縣浦和町二〇六番地
印刷所 山本 印刷



會員諸君に白す

白櫛 杉 扁柏 クヌギ ハンノキ 其他造林用苗各種 桑苗各種
澤山優良苗を揃へてありますから多少に拘はらず御用命を願ひます
殊に杉の挿木苗は赤枯病に對し絶對安全ですから是非御試めしを乞ふ
尚櫛は本村の特産であります

特別會員

加藤 石太郎

電信略號(カ)又ハ(カトウ)

北埼玉郡田ヶ谷村大字上崎

山林 苗

スギ 赤松

ヒノキ 其他各種

クヌギ

桑苗各種 福壽草 本村の特産

何れも無疵の優良品揃何卒御用命を乞ふ

大里郡藤澤村大字大谷

山林會特別會員

飯野 忠次

振替東京五九三九〇番

294.09
サ

埼玉県立図書館



31022221